



エッジゲートウェイ スタートアップガイド



AG10



AG20

目次

目次	2
はじめに	4
安全上の注意	5
エッジゲートウェイについて	6
エッジゲートウェイに関するご注意	6
本書について	7
本書に関するご注意	7
マニュアル一覧	7
本書で使用しているアイコンと記号	8
梱包品の確認	9
エッジゲートウェイセット	9
お客さまにご用意いただくもの	10
当社販売のアクセサリ（別売品）	10
エッジゲートウェイ屋内タイプ（AG10）	10
エッジゲートウェイ屋外タイプ（AG20）	11
お客さまにご用意いただくもの	12
システム全体図	13
Step 1 起動／接続する	14
屋内タイプエッジゲートウェイの場合	14
屋外タイプエッジゲートウェイの場合	16
Step 2 エッジゲートウェイにサインインする	19
PC の IP アドレスを変更する	19
初回サインイン	23
サインインする	23
Step 3 エッジゲートウェイの設定をする	25
簡易設定をする	25
時刻を設定する	33
タイムゾーンを設定する	33
時刻を設定する	34
SSH の設定をする	37
PPP の設定をする	40

ストレージ設定をする	42
ゲートウェイに設定内容を保存する	44
よくあるご質問	46
オプション設定ガイド	47
ネットワークカメラと接続する	48
VMS の設定をする	49
VMS の種類	49
Nx Witness	49
amnimo VMS	49
Nx Witness の設定をする	50
デスクトップクライアントをインストールする	50
メディアサーバーに接続する	54
VMS の設定を保存する	61
amnimo VMS の設定をする	63
amnimo VMS を有効化する	63
統合ビデオ管理システムの設定をする	67
エッジゲートウェイを有効化する	68
VMS の認証情報を設定する	70
カメラを検出する	72
カメラの認証と使用開始の設定をする	74
デバイス管理システムの設定をする	76
エッジゲートウェイを有効化する	77
remote.it の設定をする	79
remote.it のアカウントを作成する	80
remote.it の設定をする	81
remote.it の有効化をする	81
デバイスを登録する	83
サービスを登録する	84
remote.it を使ってサービスに接続する	85
ライセンスおよび商標	87
ライセンス	87
商標	87
改訂履歴	88

はじめに

このたびは当社のアムニモエッジゲートウェイ（以下「エッジゲートウェイ」）をご採用いただき、誠にありがとうございます。

スタートアップガイド（以下「本書」）では、エッジゲートウェイのセットアップ方法を説明しています。エッジゲートウェイをご使用になる前に必ずお読みください。

セットアップを完了したあとは、本書をいつでも見られる場所に保管してください。

安全上の注意

エッジゲートウェイをご使用になる前に、エッジゲートウェイに同梱されている「お使いになる前に」をよくお読みになり、安全で正しい取り扱いをするようにしてください。

エッジゲートウェイについて

エッジゲートウェイに関するご注意

- エッジゲートウェイは、設定データに関しては製品バージョンの下位互換を保証していません。

本書について

本書に関するご注意







- 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。
連絡先： アムニモカスタマーサポート
E-mail： support@amnimo.com
URL： <https://support.amnimo.com/>
- 機能／性能上とくに支障がないと思われる仕様変更、構造変更、および使用部品の変更については、その都度の改訂はしない場合がありますのでご了承ください。

マニュアル一覧

- amnimo G シリーズ エッジゲートウェイユーザーズマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/ja/edge_gw_users_manual.pdf
- amnimo ゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/gui/ja/gui_users_manual.pdf
- amnimo ゲートウェイシリーズ CLI ユーザーズマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/cli/ja/cli_users_manual.pdf
- Nx Witness VMS Guide
https://amnimo.com/manual/edge_gw/vms/ja/index.htm
- デバイス管理システムマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/alpine/dms/ja/index.htm
- 統合ビデオ管理システムマニュアル
https://amnimo.com/manual/edge_gw/evms/ja/index.htm
- エッジゲートウェイスタートアップガイド（本書）
https://amnimo.com/manual/edge_gw/sg/ja/edge_gw_sg.pdf

本書で使用しているアイコンと記号

本書のアイコンと記号には、以下の意味があります。

	機能や操作に関して、特に注意する情報を記載しています。
	機能や操作に関して、補足的な情報を記載しています。
	本書内や他の文書への参照情報を記載しています。
	一般ユーザーモードでコマンド操作できることを示しています。
	管理者モードでコマンド操作できることを示しています。
	設定モードでコマンド操作できることを示しています。

梱包品の確認

はじめに、梱包品がすべてそろっているかどうかをご確認ください。

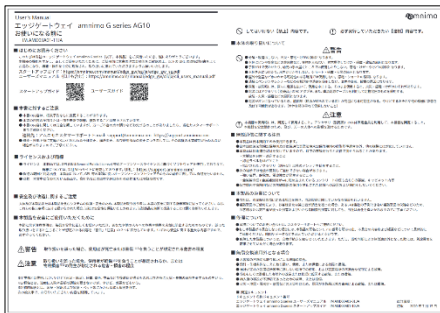
エッジゲートウェイセット

屋内タイプエッジゲートウェイ

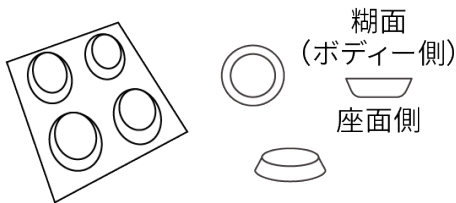
- 屋内タイプエッジゲートウェイ本体×1



- お使いになる前に×1



- ゴム足×4



屋内タイプエッジゲートウェイ

- 屋外タイプエッジゲートウェイ本体×1



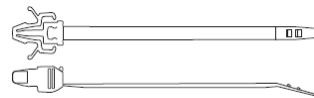
- お使いになる前に×1



- グロメット (本体装置) ×2



- 結束バンド (ケーブル固定用) ×2



お客さまにご用意いただくもの

本書のとおりを設定する場合、以下の別売品を用意する必要があります。

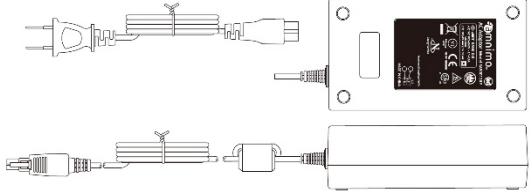
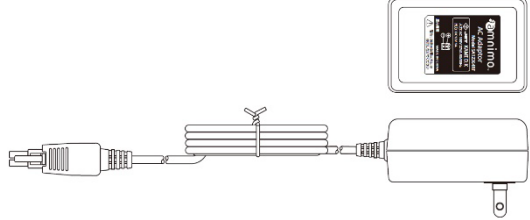
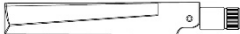


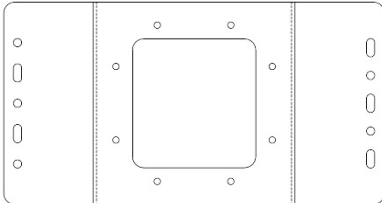

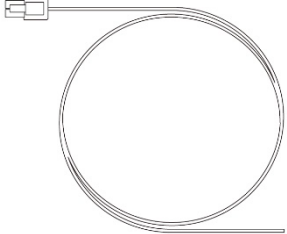


別売品は、エッジゲートウェイの保証範囲には含まれません。

当社販売のアクセサリ（別売品）

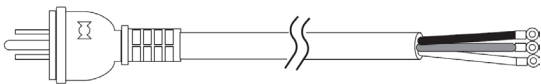
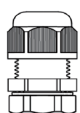
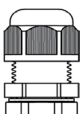
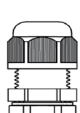
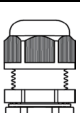
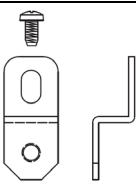
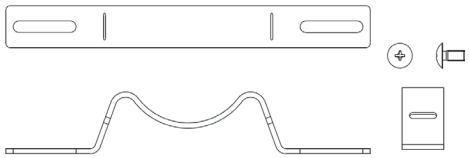

→ 仕様や規格などについては、『[amnimo G シリーズ エッジゲートウェイ ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

エッジゲートウェイ屋内タイプ（AG10）

品名	図	部品番号	仕様・備考
AC アダプター (DC24V/2A)		M7901YA	DC24V/2A、30W 負荷、 60°C環境
AC アダプター (DC12V/1A)		M7901YC	DC12V/1A、6W 負荷、60°C 環境
ロッドアンテナ		M7901YD	2 本セット
外付けアンテナ		M7901YE	ケーブル長 2.5m 2 本セット
GPS アンテナ		M7901YF	ケーブル長 5m
本体固定金具		M7901YJ	本体固定ネジ付き
コンソール変換		M7901YG	RJ-45 - D-Sub9 ピン
直流電源ケーブル		M7901YK	電源コネクタ片端未処理 ケーブル

品名	図	部品番号	仕様・備考
ゴム足		M7901YH	4 個セット

エッジゲートウェイ屋外タイプ (AG20)

品名	図	部品番号	仕様・備考
防雨 AC ケーブル		M7901YV	5m 丸形圧着端子付き 外径 9.15 mm
ケーブル グラウンド (イーサケーブル用)		M7901YQ	適合電線径 6~10 mm
ケーブル グラウンド (電源専用)		M7901YR	適合電線径 8~14 mm
ケーブル グラウンド (イーサケーブル用)		M7901YY	適合電線径 4~6.6 mm
ケーブル グラウンド (イーサケーブル 2 本用)		M7901YZ	適合電線径 4.3~6.1 mm
壁取付金具		M7901YX	ステンレス製 4 セット
ポール取付金具		M7901YW	ステンレス製 2 セット
ポール取付バンド		M7901YU	ステンレス製 対応ポール・コン 柱径 60~400 mm



- 屋外タイプエッジゲートウェイでは、筐体にタカチ電機工業製の BCPK203015S を使用しております。当該筐体に適合するタカチ電気工業製の純正プッシュンは使用可能です
- PF 管コネクタは、古河電工製 PFS-16BKSR-1(防水 PF 管コネクタ IPX5)や未来工業製 FPK-!6YPS(防水 PF 管コネクタ IPX7)やそれに準じた製品が利用可能です。

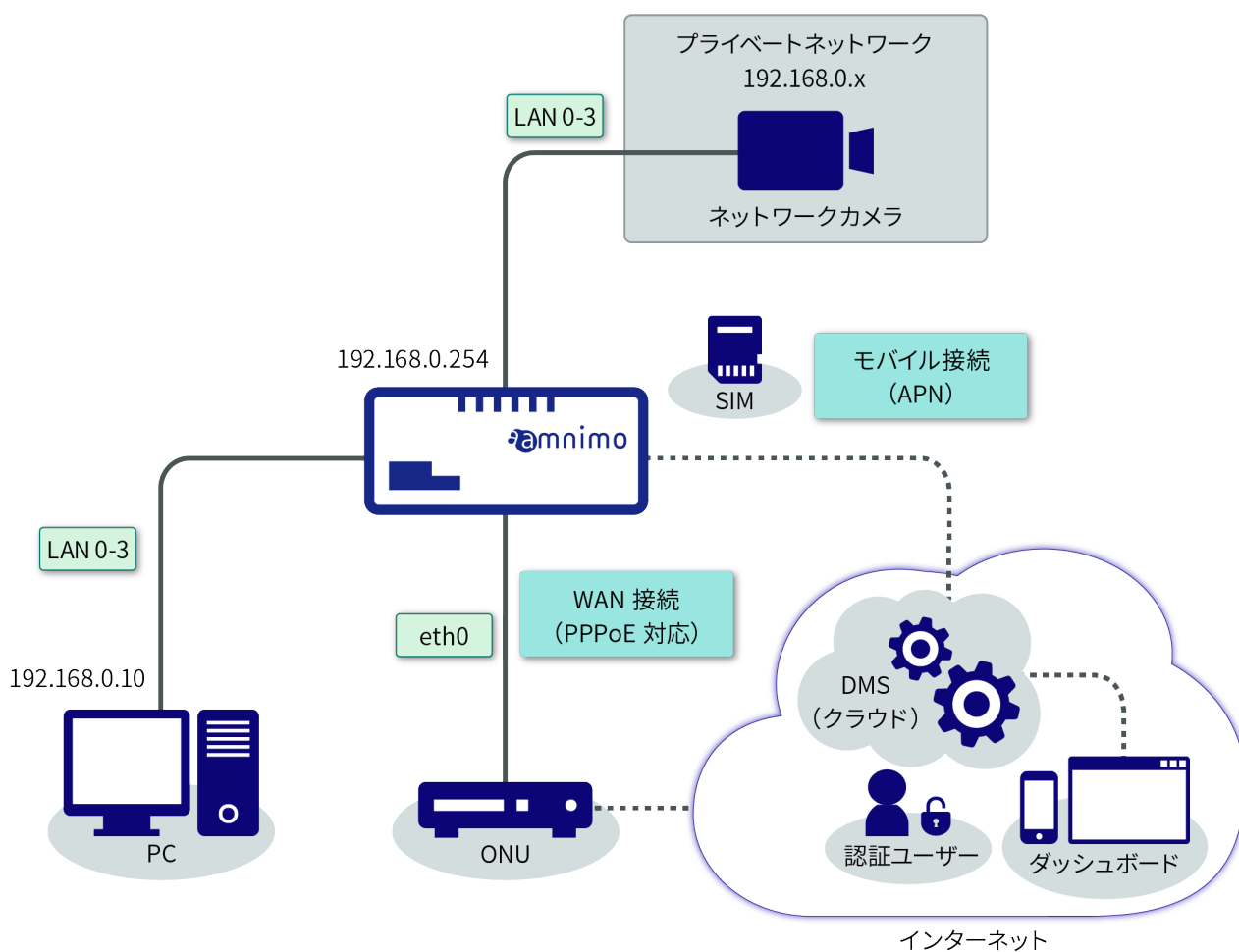
お客さまにご用意いただくもの

- SIM カード
モバイル接続する場合、ご用意ください。
➔ 仕様や規格などについては、『amnimo G シリーズ エッジゲートウェイ ユーザーズマニュアル』を参照してください。
- 設定用 PC
エッジゲートウェイの各種設定をするために必要です。
本書では、Windows 10 を用いて説明しています。
- LAN ケーブル（推奨カテゴリ：CAT5e 以上）
エッジゲートウェイと PC を接続する際に必要です。

システム全体図

本書では、以下のような構成のネットワークを例に、設定の方法を説明します。

- モバイル接続
SIM を利用してインターネットに接続します。
- WAN 接続
eth0 のインターフェースを利用してインターネットに接続します。
- LAN 接続
LAN0~3 のインターフェースを利用してプライベートネットワークに LAN 接続します。



工場出荷時のネットワーク設定

```
eth0 : dhcpv4
lan0:
lan1:
lan2:
lan3:
br0: 192.168.0.254/24
- lan0/lan1/lan2/lan3
```

Step 1 起動／接続する

このステップでは、エッジゲートウェイを起動する方法について説明します。

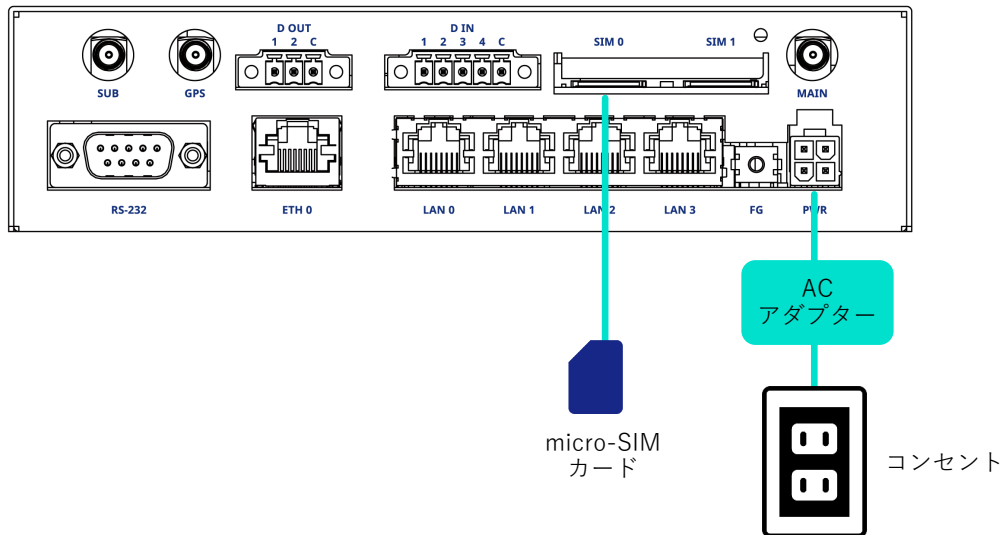
屋内タイプエッジゲートウェイの場合

操作手順

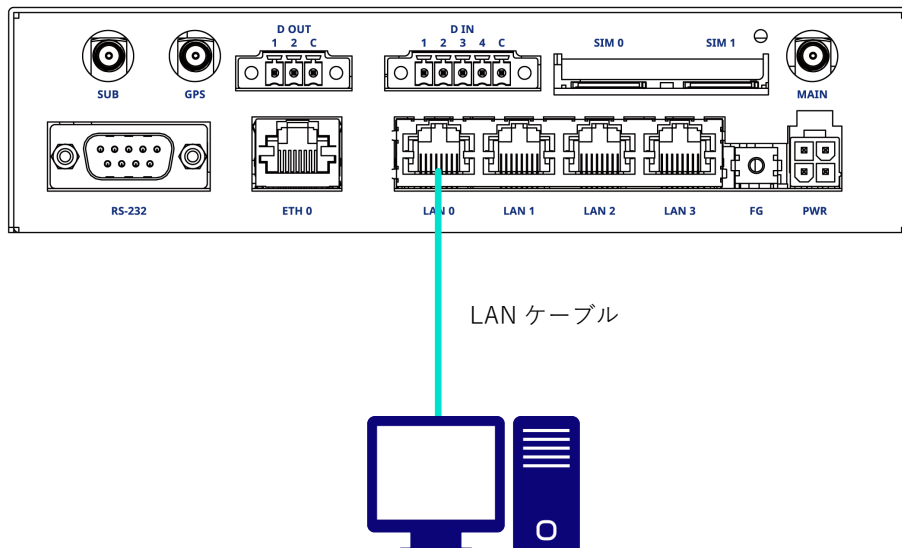
- 1 エッジゲートウェイの背面に、使用する SIM カードを挿入します。



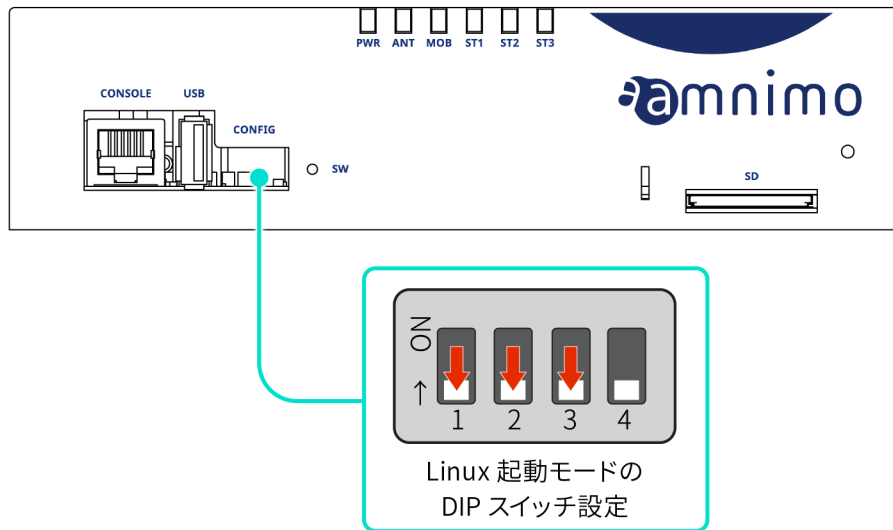
SIM カードの接点が奥側になるように差し込んでください。



- 2 LAN ケーブルを用いて、エッジゲートウェイの LAN0 ポートと PC を接続します。



- 3 エッジゲートウェイの前面にあるコンフィグレーション用 DIP スイッチを、Linux 起動モードに設定します。



DIP スイッチアイコンの説明

DIP スイッチ	説明
	ON 状態
	OFF 状態



No.4 の DIP スイッチは、ON でも OFF でも構いません。ブートローダーでは参照しません (アプリケーション側でのみ使用します)。

- 4 エッジゲートウェイに AC アダプターを接続します。
電源が自動で入り、エッジゲートウェイが起動します。

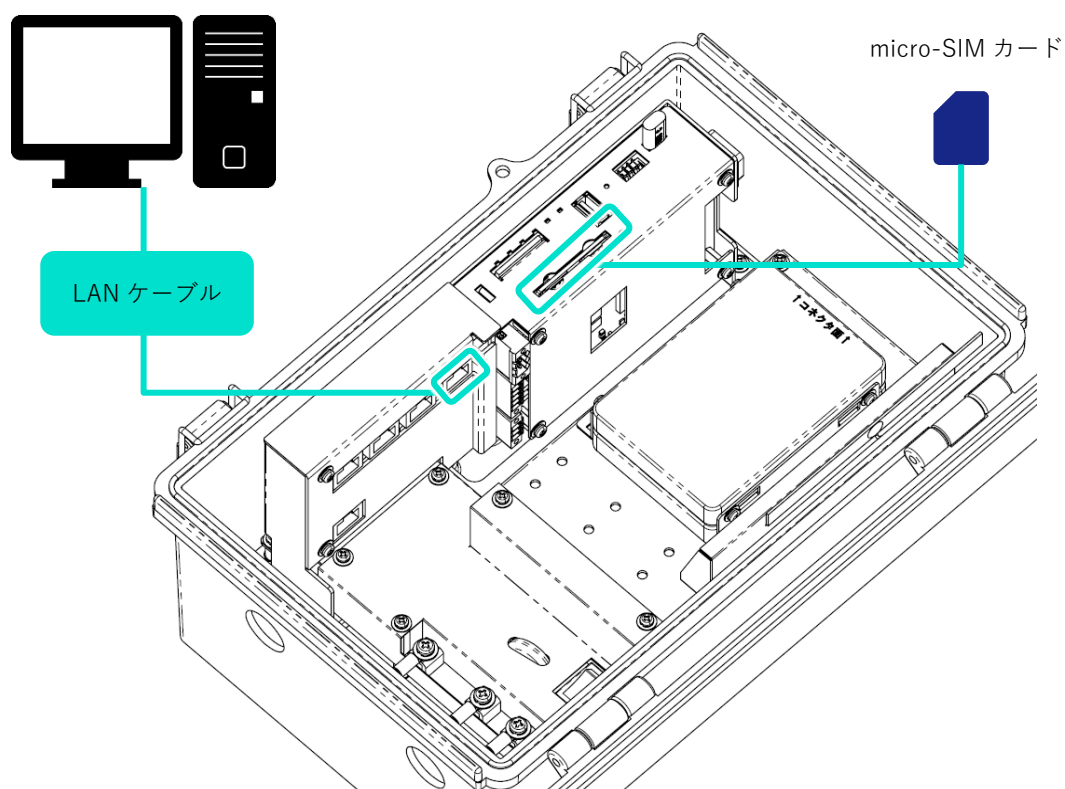
屋外タイプエッジゲートウェイの場合

操作手順

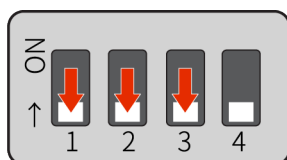
- 1 エッジゲートウェイに使用する SIM カードを挿入し、以下の図のように PC とエッジゲートウェイの LAN0 ポートを LAN ケーブルで接続します。



SIM カードの接点が奥側になるように差し込んでください。





- 2 エッジゲートウェイの上面にあるコンフィグレーション用 DIP スイッチを、Linux 起動モードに設定します。



Linux 起動モードの
DIP スイッチ設定

DIP スイッチアイコンの説明

DIP スイッチ	説明
	ON 状態
	OFF 状態

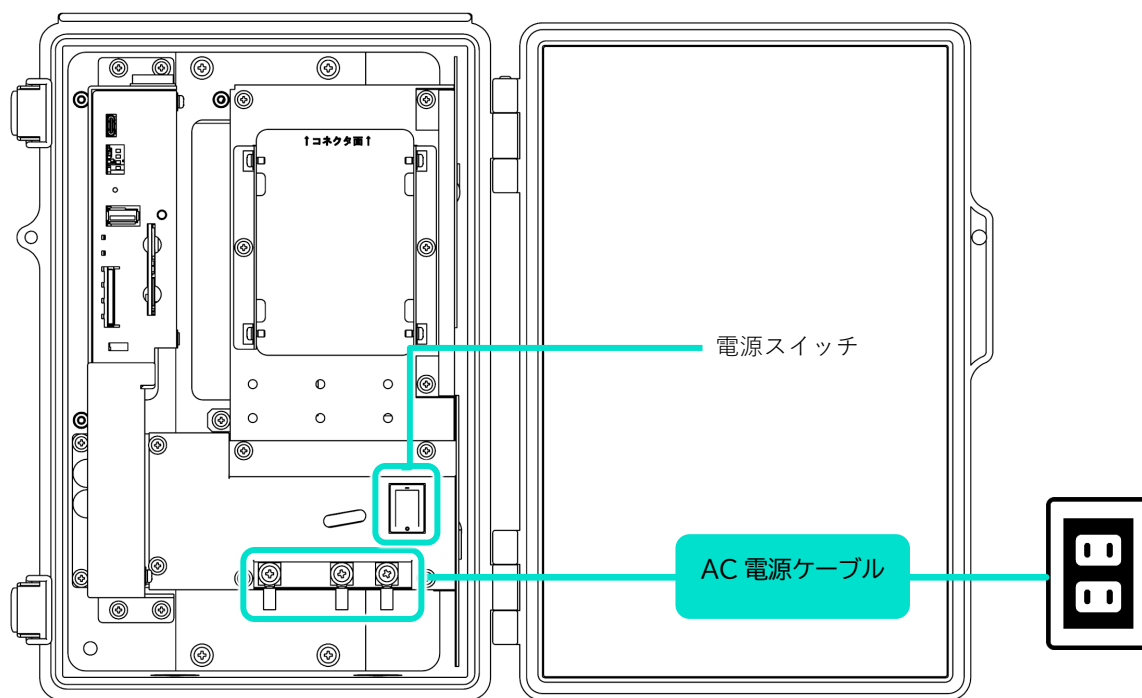


No.4 の DIP スイッチは、ON でも OFF でも構いません。ブートローダーでは参照しません（アプリケーション側でのみ使用します）。

3 エッジゲートウェイに AC 電源ケーブルを接続します。

電源スイッチをオンにし、エッジゲートウェイを起動します。

➔ 詳しくは、製品に同梱の『屋外タイプ設置ガイド（エッジゲートウェイ・IoT ルーター）』をご参照ください。

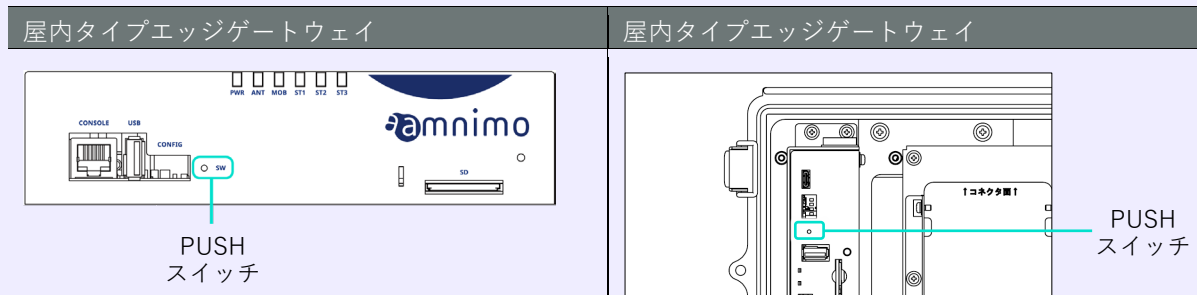




エッジゲートウェイをシャットダウンするには

以下のいずれかの方法でシャットダウンすることができます。シャットダウン中には LED PWR が点滅します。LED PWR が赤色に点灯したら、シャットダウンの完了です。



- 起動中に、本体の PUSH スイッチを、先端の尖った細いもので 3 秒以上押し込むことで、電源を OFF にする



- 以下のコマンドでシャットダウンする
 → コマンドの使い方は『エッジゲートウェイシリーズ CLI ユーザーズマニュアル』を参照してください。

```
admin@amnimo:~$ sudo systemctl poweroff ↵
[sudo] password for admin:                ←root のパスワードを入力して Enter
Stopping Docomo of user admin.
Stopping Unpack initramfs on shutdown...
(省略)
Starting Power-Off
NOTICE: You can turn off the power.
```

シャットダウン処理中の LED 表示

項目	PWR	ANT	MOB	ST1	ST2	ST3	備考
シャットダウン処理中							500ms 間隔
電源断可能状態							



自動起動機能に関する注意事項

- エッジゲートウェイは 24 時間稼働を目的としているため、障害発生時などにシャットダウンしても、自動的に回復する機能が備わっています。
- したがって、本節で説明している方法でエッジゲートウェイをシャットダウンしても、電源コネクタから電源が供給されている場合は、再起動します。
- エッジゲートウェイを電源断状態にしたい場合は、シャットダウンして LED が電源断可能状態（電源 LED が赤点灯）の状態になってから、電源プラグを引き抜いてください。

Step 2 エッジゲートウェイにサインインする

このステップでは、エッジゲートウェイにサインインする手順について説明します。

PC の IP アドレスを変更する

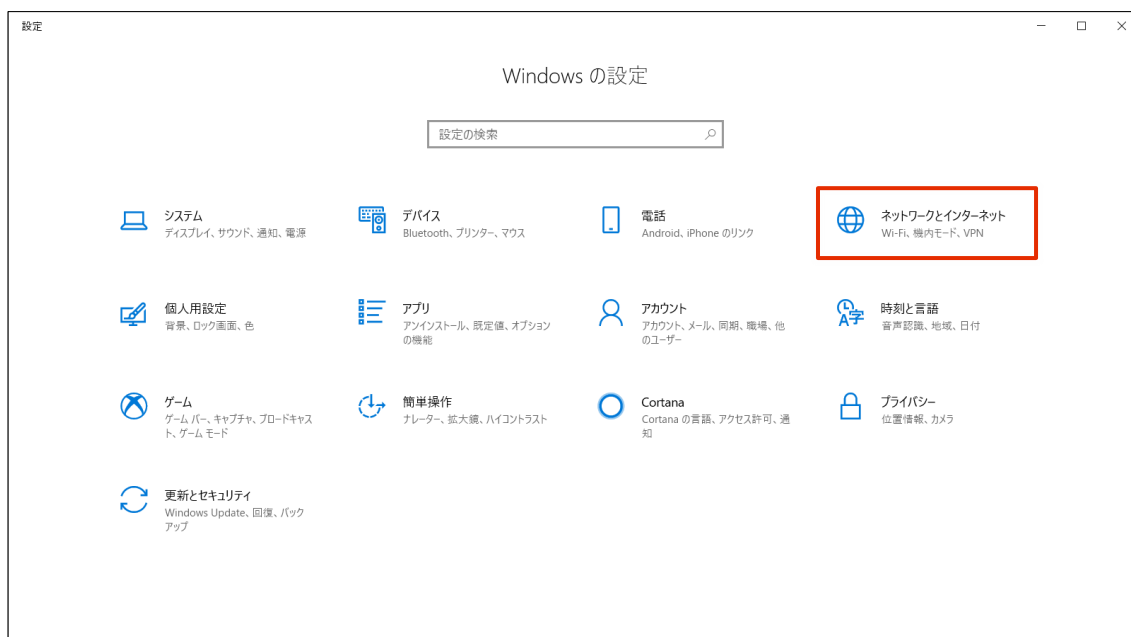
GUI 設定画面にサインインするためには、エッジゲートウェイと PC が同一ネットワークに所属している必要があります。ご利用の PC の IP アドレスを、エッジゲートウェイの IP アドレス「192.168.0.254」にあわせて変更します。



- 本書では、Windows 10 を使用して説明しています。
- 本書では、エッジゲートウェイの IP アドレス「192.168.0.254」に合わせて、ご利用の PC の IP アドレスを「192.168.0.10」に変更しています。

操作手順

- 1 「Windows の設定」で、[ネットワークとインターネット] をクリックします。



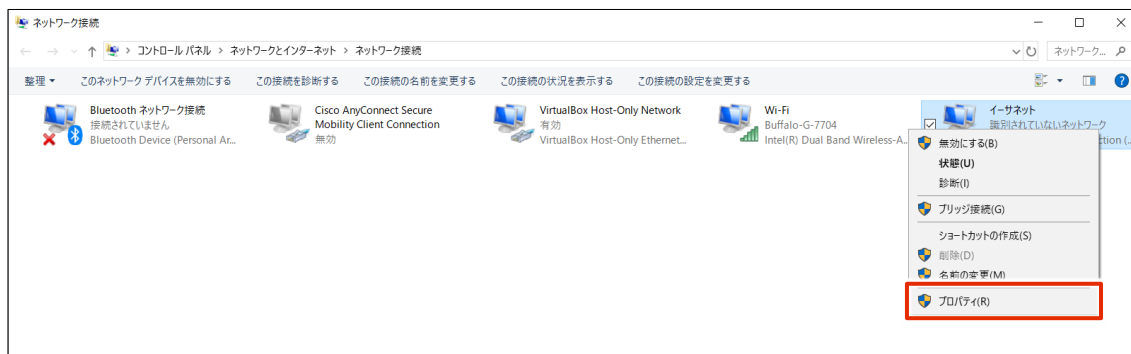
2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。



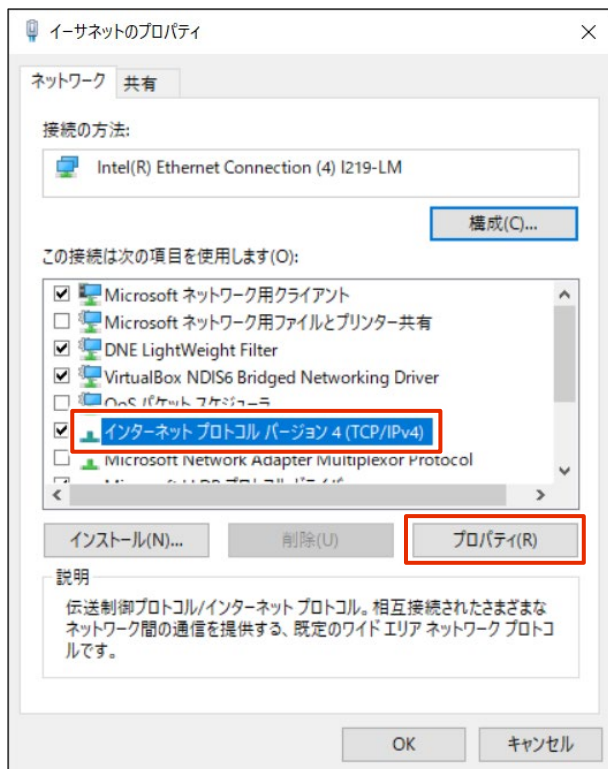
3 [アダプターの設定の変更] をクリックします。



4 [イーサネット] を右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] を選択します。

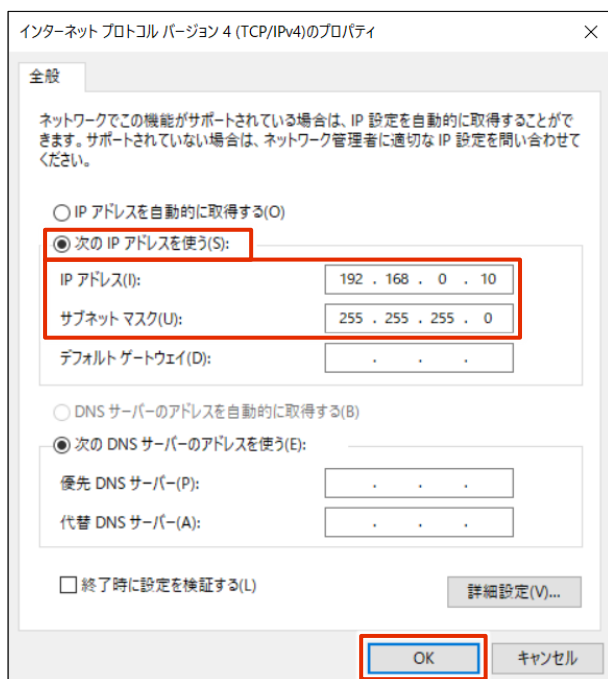


- 5 「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。

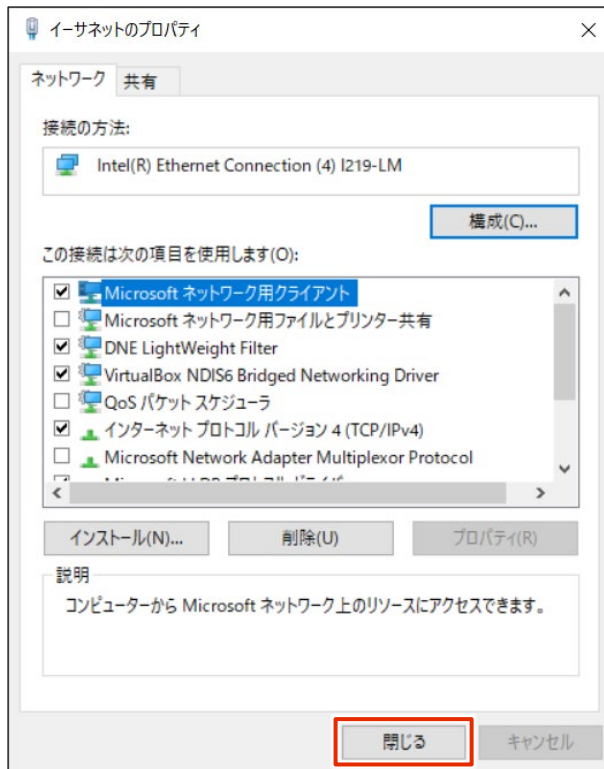


- 6 IP アドレスを設定します。

- 1 「次の IP アドレスを使う」を選択します。
- 2 「IP アドレス」に「192.168.0.10」と入力し、「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。
- 3 「OK」をクリックします。



7 [閉じる] をクリックします。



IP アドレスが設定されます。

初回サインイン

本項では、GUI（Graphic User Interface）でのサインイン手順について説明します。



GUI はブラウザーから簡単にエッジゲートウェイの設定ができます。

サインインする

GUI で初めてサインインする場合は、管理者アカウント（admin）のパスワードを設定したあとにサインインします。



GUI 機能の動作確認済み環境は、以下のとおりです。

OS	ブラウザー	動作確認バージョン
Windows10 Pro2004 (64bit)	Google Chrome	92.0.4515.131 (64bit)
	Microsoft Edge	_※
	Firefox	_※
mac OS big Sur 11.2.3	Safari	14.0.3 (16610.4.3.1.7)
	Google Chrome	_※
	Firefox	_※

※ 今後のリリースで対応予定

操作手順

- 1 ブラウザーを起動し、本製品の GUI 設定画面の URL にアクセスします。
<http://192.168.0.254>
「パスワード登録」画面が表示されます。
- 2 「パスワード」と「パスワード（確認用）」に admin に設定したいパスワードを入力して、[登録] をクリックします。



パスワードには、以下の条件にあてはまる文字列を設定してください。文字列には RFC1738 で規定されている "password" が設定できます。

- 8 文字以上
- 英大文字、英小文字、数字、記号の 2 種類以上を含む
- また、上記の条件を満たすパスワードでも、以下の条件にあてはまる場合、設定することはできません。
 - 辞書に含まれる単語（例：test）
 - 数字やアルファベットのキーボード配列（例：1234、abcde、qwerty）などの規則性がある言葉
 - 上記の組み合わせ（例：test1234）



The screenshot shows the 'amnimo' password registration page. The title is 'パスワード登録' (Password Registration). Below the title, it says 'パスワードが登録されていません。' (Password is not registered). A message follows: '利用を開始する前に、パスワードを登録してください。パスワードはadminに対して設定されます。' (Before starting use, please register a password. The password is set for admin). There are two input fields: 'パスワード' (Password) and 'パスワード (確認用)' (Password (Confirmation)), both with masked characters and eye icons. A blue '登録' (Register) button is at the bottom. The footer contains '© 2021 amnimo, Inc.'

admin のパスワードが設定され、「サインイン」画面が表示されます。

- 3 「ユーザー名」に「admin」、「パスワード」に手順 2 で設定したパスワードを入力して、[サインイン] をクリックします。



The screenshot shows the 'amnimo' sign-in page. The title is 'サインイン' (Sign In). Below the title, it says 'パスワードが登録されました' (Password has been registered). A message follows: 'まだ初回サインインしていません。登録したパスワードでサインインしてください。' (You have not signed in for the first time yet. Please sign in with the registered password). There are two input fields: 'ユーザー名' (Username) with the value 'admin' and 'パスワード' (Password) with masked characters and an eye icon. A blue 'サインイン' (Sign In) button is at the bottom. The footer contains '© 2021 amnimo, Inc.'

本製品へのサインインが完了すると、「機器情報」画面が表示されます。

Step 3 エッジゲートウェイの設定をする

エッジゲートウェイの設定は、Graphical User Interface (GUI) で操作をすることができます。このステップでは、GUI を用いた簡易設定について説明します。

簡易設定をする

「簡易設定」画面で、以下の設定をすることができます。

- モバイル通信設定
- インターフェース設定
- パッケージリポジトリの認証情報
- DNS の有効化／無効化
- フィルター
- DMS (デバイス管理システム) の有効化／無効化
- Nx Witness の有効化／無効化

なお、簡易設定をすると、DNS の設定およびフィルタリングの設定が自動で適用されます。自動で適用される DNS およびフィルタリングの設定内容は、以下のとおりです。

詳細設定をする場合は、以下のマニュアルを参照してください。

➔ 『エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル』の『2.9 フィルター設定をする』
『2.11 DNS 設定をする』

- DNS
有効無効設定： 有効
- フィルタリング
 - 入力設定
入力デフォルトポリシー： 破棄
related： 許可
established： 許可
invalid： 破棄
入力インターフェース： 許可
 - 転送設定
転送デフォルトポリシー： 許可
 - 出力設定
出力デフォルトポリシー： 許可



ご利用のエッジゲートウェイのバージョンが V1.1.2 以前の場合は、DNS サーバーのデフォルト設定は無効です。また、GUI 機能はありません。

V1.1.2 から V1.2.1 以降にアップデートすると、DNS が未設定の場合は、DNS が無効になります。また、GUI は無効になります。

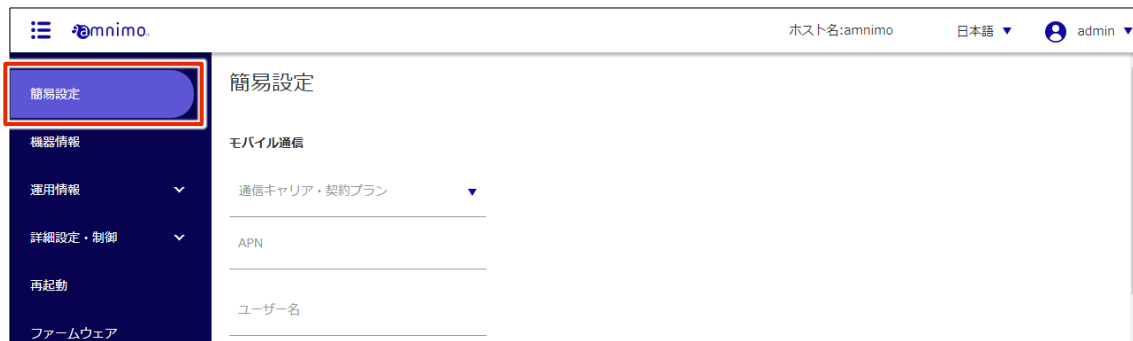
バージョンの確認方法については、以下のマニュアルを参照してください。

➔ 『エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル』の『1.5 機器情報を確認する』

操作手順

- 1 サイドメニューの「簡易設定」をクリックします。

「簡易設定」画面が表示されます。



- 2 モバイル接続ご利用の場合は、モバイル通信設定の「通信キャリア・契約プラン」から登録済みの通信キャリアまたは契約プランを選択します。

選択した通信キャリアまたは契約プランに応じて、「APN名」「アカウント」「パスワード」「認証方式」が自動的に設定されます。



- 「通信キャリア・契約プラン」に使用する通信キャリア／契約プランが登録されていない場合は、[その他]を選択してください。
- 認証する必要のないSIMを使用する場合は、「認証方式」で「PAP」と「CHAP」の両方のチェックをはずしてください。



モバイル設定を誤って設定すると、フェイルセーフ機能によってコンパクトルーターが再起動する場合があります。

- 設定の際は、ユーザー名やパスワードを正しく設定してください。
- コンパクトルーターが再起動を繰り返すときは以下のページを参照してください。

→ [『よくあるご質問』](#)



モバイル接続設定については、以下のページで動画でも解説しています。

→ [『Amnimoのデバイスをインターネットに接続する』](#)

3 環境に応じて、インターフェースの設定をします。

- 1 モバイル通信の際に必要な「ecm0」の設定をします。
トグルをクリックして、有効または無効に設定します。
また、必要に応じて、「ダイナミック SNAT」にチェックを付けます。
- 2 WAN 接続の際に必要な「eth0」の設定をします。
トグルをクリックして、有効または無効に設定します。
「IP アドレス」を割り当てる方法として、「DHCP クライアント」または「固定 IP アドレス」を選択します。「固定 IP アドレス」を選択した場合は、「IP アドレス」と「ネットマスク」を入力する必要があります。
また、必要に応じて、「ダイナミック SNAT」にチェックを付けます。
- 3 LAN 接続の際に必要な「br0」の設定をします。
トグルをクリックして、有効または無効に設定します。
「IP アドレス」を割り当てる方法として、「DHCP クライアント」または「固定 IP アドレス」を選択します。「固定 IP アドレス」を選択した場合は、「IP アドレス」と「ネットマスク」を入力する必要があります。
また、必要に応じて、「ダイナミック SNAT」にチェックを付けます。

The screenshot shows the 'mnimo' web interface for configuring network interfaces. The left sidebar contains navigation options: 簡易設定 (Simple Settings), 機器情報 (Device Information), 運用情報 (Operational Information), 詳細設定・制御 (Detailed Settings & Control), 再起動 (Restart), ファームウェア (Firmware), and 設定ファイル (Configuration Files). The main content area is titled 'インターフェイス' (Interface) and lists three interfaces: ecm0, eth0, and br0. Each interface has a status toggle (有効/無効) and a checkbox for 'ダイナミックSNAT'. The eth0 and br0 sections also include IP address configuration options (DHCPクライアント or 固定IPアドレス) and, for br0, fields for IPv4 address and prefix length. Red boxes highlight the settings for each interface, with numbered callouts 1, 2, and 3 on the right side of the interface list.

Interface	Status	Dynamic SNAT	IP Address Method	IPv4 Address	Prefix Length
ecm0	有効	チェック済み	-	-	-
eth0	有効	未チェック	DHCPクライアント	-	-
br0	有効	未チェック	固定IPアドレス	192.168.0.254	24

4 パッケージリポジトリの認証情報として、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



パッケージリポジトリの認証情報は、ファームウェア更新が必要な場合のみ設定する必要があります。

認証情報（ユーザー名とパスワード）をご希望の方は、弊社サポートにお問い合わせください。

amnimo ホスト名:amnimo 日本語 admin

パッケージリポジトリの認証情報

ユーザー名
user

パスワード
.....

DMS
 有効

NxWitness
 有効

ポート番号
7001

パスワード
.....

キャンセル 設定

5 DMS の設定をします。トグルをスライドして、DMS を有効または無効に設定します。

amnimo ホスト名:amnimo 日本語 admin

パッケージリポジトリの認証情報

ユーザー名
user

パスワード
.....

DMS
 有効

NxWitness
 有効

ポート番号
7001

パスワード
.....

キャンセル 設定

- 6 Nx Witness の設定をします。トグルをスライドして、Nx Witness を有効または無効に設定します。



Nx Witness を有効に設定した場合、必要に応じて「ポート番号」と「パスワード」を設定します。

amnimo ホスト名:amnimo 日本語 admin

簡易設定
機器情報
運用情報
詳細設定・制御
再起動
ファームウェア
設定ファイル

パッケージリポジトリの認証情報

ユーザー名
user

パスワード

DMS
 有効

NxWitness
 有効

ポート番号
7001

パスワード

キャンセル 設定

- 7 画面を一番下までスクロールし、[設定] をクリックします。

amnimo ホスト名:amnimo 日本語 admin

簡易設定
機器情報
運用情報
詳細設定・制御
再起動
ファームウェア
設定ファイル

パッケージリポジトリの認証情報

ユーザー名
user

パスワード

DMS
 有効

NxWitness
 有効

ポート番号
7001

パスワード

キャンセル 設定

設定の確認画面が表示されます。

8 [設定] をクリックします。



設定が保存されます。

9 サイドメニューの [運用情報] - [モバイル通信] をクリックし、モバイル通信の状態を確認します。



通信モジュールの状態	意味
dialing	接続処理中
connected	接続状態
disconnected	切断状態



モバイル設定に誤りがある場合など接続が正常に行われていない場合、フェールセーフ機能により機器が自動的に再起動することがあります。ご注意ください。

Tips GUI のプロトコルとポート番号を変更するには

GUI のサイドメニューで [詳細設定・制御] - [GUI 設定] を選択すると、GUI 設定で使用するプロトコルとポート番号を変更することができます。

→ 詳しくは、『エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル』を参照してください。

時刻を設定する

エッジゲートウェイのタイムゾーンおよび時刻の設定をします。



本書では、PC と時刻を同期する例について説明しています。

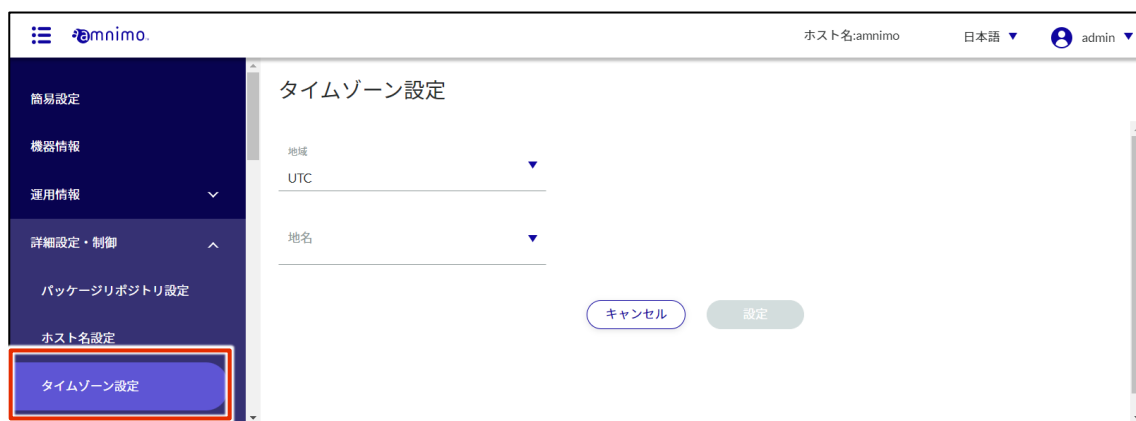
時刻設定に関しては NTP 設定で時刻を同期する方法を推奨していますが、手動での入力も可能です。

➔ 詳細については、『エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル』を参照してください。

タイムゾーンを設定する

操作手順

- 1 サイドメニューの [詳細設定・制御] - [タイムゾーン設定] をクリックします。
「タイムゾーン設定」画面が表示されます。



- 2 タイムゾーンを設定します。
 - ① 「地域」を選択します。
 - ② 「地名」を選択します。
 - ③ [設定] をクリックします。



タイムゾーンが設定されます。

時刻を設定する

操作手順

- 1 サイドメニューの [詳細設定・制御] - [時刻設定] をクリックします。
「時刻設定」画面が表示されます。



- 2 「時刻設定」画面で、[NTP 設定] をクリックします。



3 トグルをスライドして有効にします。



4 設定内容を変更します。



NTP サーバーに関して、アムニモでは Google Public NTP (time.google.com) や、NICT 公開 NTP サービス (ntp.nict.jp) を推奨しています。

各サービスの利用規約や注意事項については以下をご覧ください。

➔ Google Public NTP : <https://developers.google.com/terms/>)

➔ NICT 公開 NTP サービス : <https://jjy.nict.go.jp/tsp/PubNtp/qa.html>)

また本手順で設定した場合、NTP の時刻同期は以下の間隔で実施されます (本値は CLI から変更可能です)。

- ネットワーク接続が開始した直後 : 64s 間隔
- その後、徐々に間隔を大きくしながら時刻同期を継続的に実施
- 最終的に、定期的に同期を行う間隔 : 1024s

- 1 NTP 同期に使用するインターネット通信が行われるインターフェースを選択します。モバイル通信の場合は「ecm0」を選択します。
- 2 同期するサーバーの URL を記載します。
- 3 ポート番号を指定します。デフォルト値で問題が無ければ変更不要です。



5 [設定] をクリックします。

時刻設定

手動設定 NTP設定

有効

同期
ecm0

サーバー
time.google.com

ポート番号
123

キャンセル 設定

© 2021 amnimo, Inc.

時刻設定が保存されます。

SSH の設定をする

SSH を利用してエッジゲートウェイにログインするために、SSH の設定をします。

操作手順

- 1 サイドメニューの [詳細設定・制御] - [SSH 設定] をクリックします。
「SSH 設定」画面が表示されます。



- 2 トグルをスライドし、SSH を有効に設定します。



3 ポートの設定をします。

- 1 必要に応じて、ポート番号を変更します。



- ポート番号は、1～65535 の範囲で設定することができます。
- SSH では標準で 22 番ポートを使用します。
ポート番号を変更した場合、クライアントはそのポート番号を指定して接続する必要がありますため、注意が必要です。

- 2 「キープアライブを有効にする」にチェックを付けることで、定期的に keepalive パケットを送信して、SSH 接続がタイムアウトするのを防ぐことが可能です。

4 暗号化方式の設定をします。

- 1 使用する暗号化方式として、「推奨設定」または「個別選択」を選択します。

➔ 「推奨設定」を選択した場合は、手順 5 に進んでください。

- 2 「個別選択」を選択した場合は、使用する暗号化方式にチェックを付けます。

5 [設定] をクリックします。



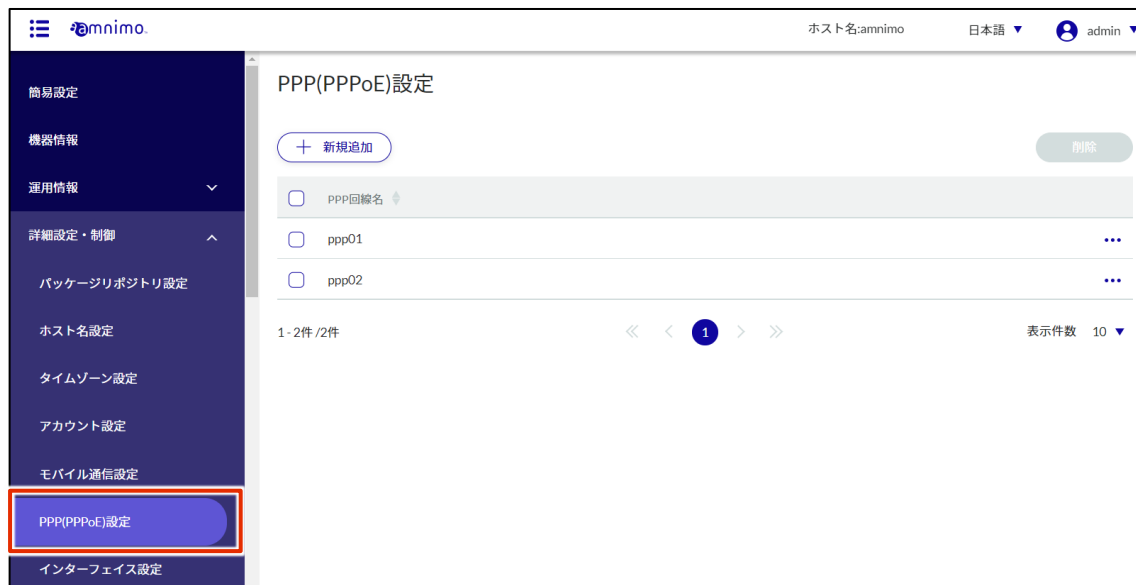
SSH の設定が保存されます。

PPP の設定をする

PPP を利用してインターネットに接続する場合は、PPP 接続の設定をします。ご利用の環境に合わせ、必要に応じて設定してください。

操作手順

- 1 サイドメニューの [詳細設定・制御] - [PPP(PPPoE)設定] をクリックします。
「PPP(PPPoE)設定」画面に、登録されている PPP (PPPoE) 設定が一覧表示されます。



PPP (PPPoE) の一覧で「PPP 回線名」のタブをクリックすることで、PPP 回線名の降順 / 昇順で登録されている PPP (PPPoE) を並び替えることができます。



- 2 「PPP(PPPoE)設定」画面で、[新規追加] をクリックします。



「PPP(PPPoE)設定の追加」画面が表示されます。

3 PPP (PPPoE) の設定をします。

- 1 PPP 回線名を入力します。
- 2 メッセージ出力レベルを選択します。
- 3 認証方式を選択します。
- 4 ユーザー名とパスワードを入力します。

Host: amnimo | Language: 日本語 | User: admin

PPP(PPPoE)設定の追加

PPP回線名: ppp01 ①

メッセージ出力レベル: 情報 ②

認証方式: PAP+CHAP PAP CHAP 認証なし ③

ユーザー名: admin ④

パスワード: ●●●●●●

4 [設定] をクリックします。

Host: amnimo | Language: 日本語 | User: admin

PPP(PPPoE)設定の追加

PPP回線名: ppp01

メッセージ出力レベル: 情報

認証方式: PAP+CHAP PAP CHAP 認証なし

ユーザー名: admin

パスワード: ●●●●●●

キャンセル [設定]

PPP (PPPoE) の設定が追加されます。

Host: amnimo | Language: 日本語 | User: admin

PPP(PPPoE)設定

+ 新規追加 削除

<input type="checkbox"/>	PPP回線名	
<input type="checkbox"/>	ppp01	...
<input type="checkbox"/>	ppp02	...

1 - 2件 / 2件 << < 1 > >> 表示件数 10

ストレージ設定をする

SSD ストレージ付きのエッジゲートウェイをご利用の場合、ストレージの設定をする必要があります。本ステップでは、ストレージをマウントして利用できるようにする手順について説明します。



この機能を利用するには、管理者としてサインインする必要があります。

操作手順

- 1 サイドメニューの「詳細設定・制御」 - 「ストレージ設定」をクリックします。

「ストレージ設定」画面に、本製品に登録されているストレージ設定の一覧が表示されます。



ストレージ設定一覧の「パーティション」や「ファイルシステム」などのタブをクリックすることで、各項目の降順／昇順でストレージ設定一覧を並び替えることができます。

- 2 「新規追加」をクリックします。

「ストレージ設定の追加」画面が表示されます。

3 ストレージの設定をします。



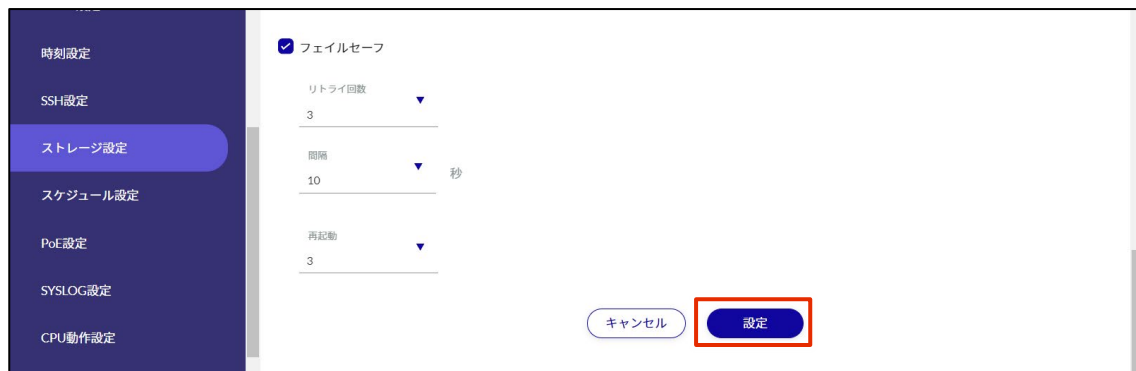
本書では、以下のように設定をします。

- パーティション「sda1」
 - マウントポイント「/media/ssd」
 - ファイルシステム「ext4」
- ➔ 詳細な設定については、『エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル』の『2.15 ストレージ設定をする』を参照してください。

- 1 パーティション「sda1」を選択します。
- 2 マウントポイント名として「/media/ssd」を指定します。
- 3 ファイルシステムで「ext4」を選択します。
- 4 マウントオプションを選択します。



4 [設定] をクリックします。



ストレージの設定が追加されます。

ゲートウェイに設定内容を保存する

GUIで設定した内容を保存するため、ゲートウェイの設定ファイルに設定内容を書き込みます。エッジゲートウェイを再起動したときに設定ファイルが読み込まれ、設定内容が反映されます。

操作手順

- 1 サイドメニューの「設定ファイル」をクリックします。

「設定ファイル」画面が表示されます。



- 2 「現在の設定をデバイスに保存」をクリックします。



「確認」画面が表示されます。

- 3 「保存する」をクリックします。



設定がゲートウェイに保存されます。



ここまでの手順で、エッジゲートウェイの基本的な設定は完了です。

次ページのオプション設定ガイドでは、以下の内容が続きます。

ご利用状況にあわせて参照のうえ、設定を進めてください。

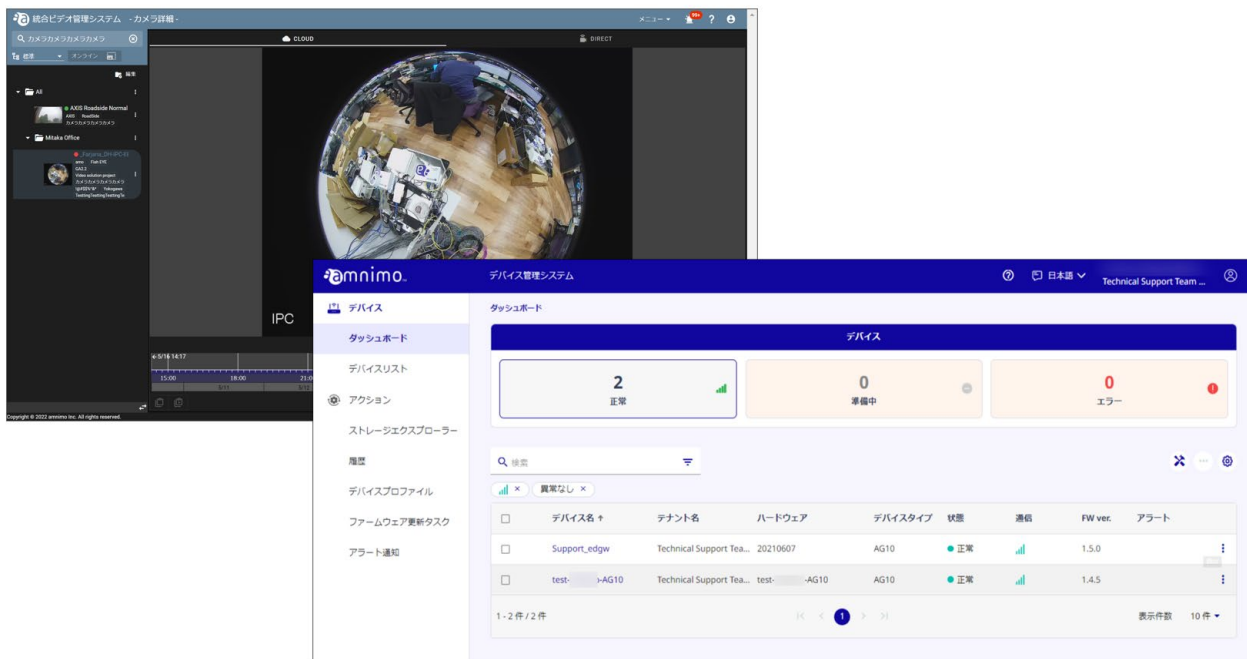
- [ネットワークカメラと接続する](#)
 - [VMS の設定をする](#)
 - [デバイス管理システムの設定をする](#)
 - [統合ビデオ管理システムの設定をする](#)
 - [remote.it の設定をする](#)
-

よくあるご質問

こんなときは？	ご確認ください
<p>エッジゲートウェイが再起動を繰り返す</p>	<p>モバイル通信設定が正しく行えない場合に、フェイルセーフ機能によりエッジゲートウェイが再起動を繰り返すことがあります。以下の点について確認してください。</p> <p>フェイルセーフを無効にする</p> <p>以下の①～⑤の順に確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① サイドメニューの [詳細設定・制御] - [モバイル通信設定] をクリックします。 ② 対象のモバイル回線名を選択し、[...] - [編集] をクリックします。 ③ [フェイルセーフ] のチェックを外し、[設定] をクリックします。  <ol style="list-style-type: none"> ④ 同ページ内のセッション一覧にある、対象のセッション名を選択し、[...] - [編集] をクリックします。 ⑤ 正しい内容に設定し、[設定] をクリックします。 <p>疎通状況を確認する</p> <p>サイドメニューの [運用情報] - [モバイル通信] をクリックし、”モバイルモジュールの状態” が ”connected” となっていることを確認します。</p>  <p>通信が確認できたら、必要に応じてフェイルセーフを有効に戻してください。</p>



オプション設定ガイド



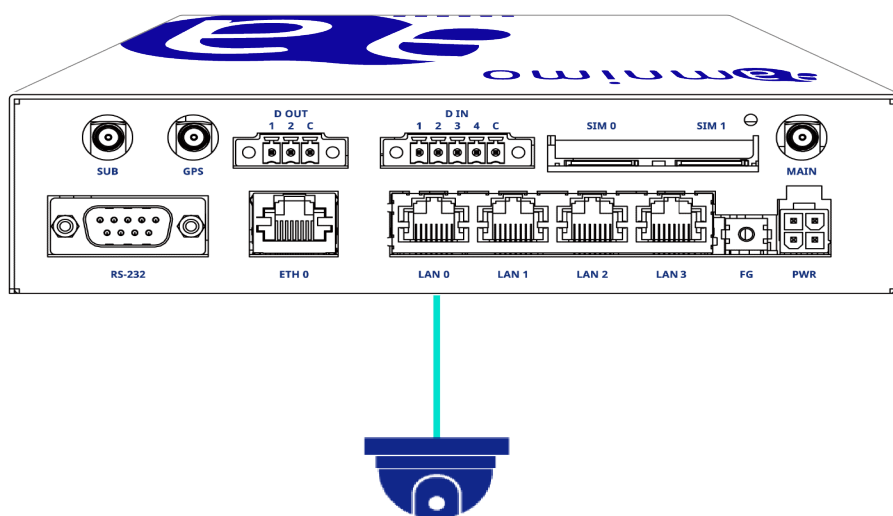
ネットワークカメラと接続する

ネットワークカメラとエッジゲートウェイを LAN ケーブルで接続して、カメラの設定をします。

以下の図のように、ネットワークカメラとエッジゲートウェイを LAN ケーブルで接続します。



- ネットワークカメラの設定については、ご使用のカメラのマニュアルを参照してください。
- ご利用のネットワーク環境やセキュリティ設定によっては、カメラが認識しないことがあります。その場合、VPN の環境や PC のセキュリティ設定などをご確認ください。



- PoE に対応しているカメラであれば、エッジゲートウェイの PoE (Power of Ethernet) の機能によって、カメラに給電することができます。
- PoE を利用する場合、PoE の仕様は以下のとおりです。
 - LAN 0~3 で使用する電力の合計は 40W まで
 - 1 つのポートで使用する最大電力は 25W まで
- PoE を利用する場合、CAT 5e (カテゴリ-5e) 以上の LAN ケーブルが必要です。
- PoE の設定については、以下のマニュアルを参照してください。
 - ➔ 『GUI ユーザーズマニュアル』

VMS の設定をする

このステップでは、ネットワークカメラの管理ツールである VMS を利用するための設定について説明します。

VMS の種類

アムニモは、ネットワークカメラの管理ツールとして、2 種類の Video Management System (VMS) を採用しています。

Nx Witness ([Network Optix 社](#))

amnimo VMS (アムニモ)

Nx Witness

Nx Witness は、以下の 4 つの主要なコンポーネントから構成される VMS です。

- メディアサーバー
- デスクトップクライアント
- モバイルクライアント
- クラウド

エッジゲートウェイには、事前にメディアサーバーがインストールされています。メディアサーバーでは、カメラから映像を取得したり、カメラを設定したりすることができます。

また、簡単な設定で、デスクトップクライアントなどからメディアサーバーにアクセスして、カメラの映像や録画ビデオを閲覧することができます。また、クライアントからサーバーやカメラの管理をすることもできます。

アムニモの統合ビデオ管理システムでは分散配置された複数のメディアサーバーのカメラ映像や録画ビデオを遠隔から統合管理することができます。

amnimo VMS

amnimo VMS は、アムニモの統合ビデオ管理システムを通してカメラ映像や録画ビデオを閲覧するためにアムニモが独自開発した VMS です。

事前に amnimo VMS サーバーがインストールされており、エッジゲートウェイの設定により amnimo VMS を有効にすることによって使うことができます。このサーバーではカメラから映像を取得したり、その映像をエッジゲートウェイに録画することができます。

アムニモの統合ビデオ管理システムでは、分散配置された複数の amnimo VMS サーバーに接続されたカメラの管理、カメラ映像や録画ビデオの閲覧・取得を統合管理することができます。

Nx Witness の設定をする



- Nx witness を利用せず、amnimo VMS を利用するお客様は、Nx Witness の設定は不要です。『amnimo VMS の設定をする』からはじめてください。
- Nx Witness の詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。
→ 『[Nx Witness VMS Guide](#)』

デスクトップクライアントをインストールする

ここでは、Windows PC に Nx Witness デスクトップクライアントをインストールする方法について説明します。

操作手順

- 1 Windows 版の Nx Witness デスクトップクライアントのインストールパッケージをダウンロードします。

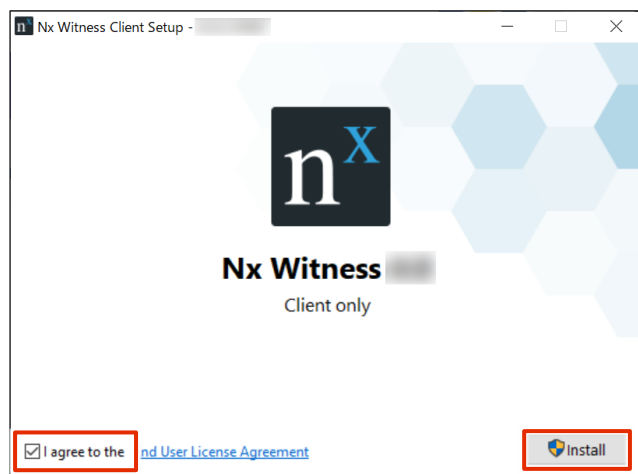


- 使用環境にあったクライアントのバージョンとダウンロード先は、以下のページで確認することができます。
<https://support.amnimo.com/hc/ja/articles/360050747073>
- ダウンロードの際は、必ず Client Installer を選択してください。
- メーカーの都合によりインストール画面のデザインが変わる可能性があります。

- 2 Windows PC で、ダウンロードしたインストールパッケージ（exe ファイル）をダブルクリックします。

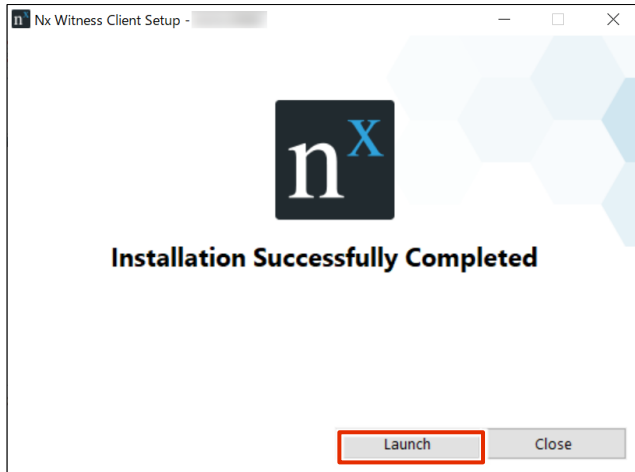
インストーラーが起動します。

- 3 使用許諾に同意し、[Install] をクリックします。



インストールが開始されます。

- 4 インストールが完了したら、[Launch] をクリックします。



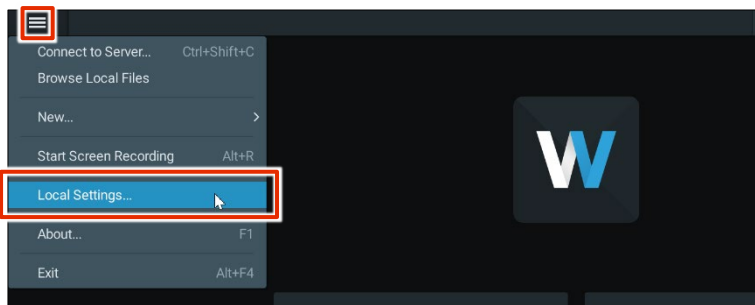
Nx Witness デスクトップクライアントが起動します。

日本語表示にする

Nx Witness は日本語で表示することができます。必要に応じて設定してください。

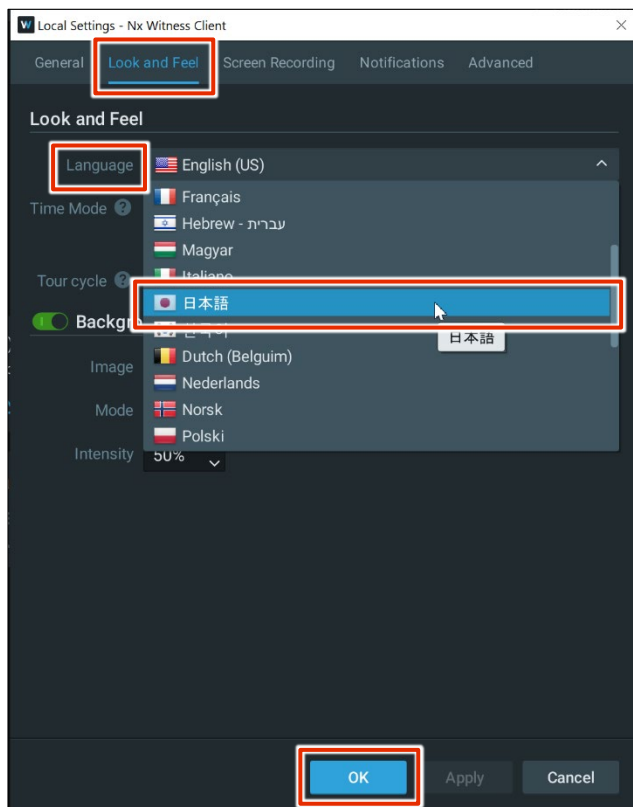
操作手順

- 1 Nx Witness の画面左上にあるメニューボタンをクリックし、[Local Setting...] をクリックします。



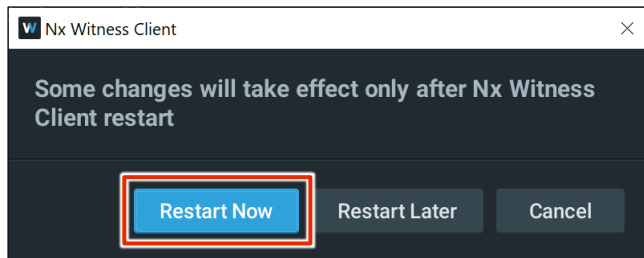
「Local Settings」画面が表示されます。

- 2 日本語表示の設定をします。
 - ① [Look and Feel] をクリックします。
 - ② [Language] をクリックして、[日本語] を選択します。
 - ③ [OK] をクリックします。



再起動の確認ダイアログが表示されます。

- 3 [Restart Now] をクリックします。



Nx Witness が再起動します。

再起動すると、日本語表示の設定が反映されます。

メディアサーバーに接続する

エッジゲートウェイと同一ネットワークにある PC を使用して、メディアサーバーに接続します。



エッジゲートウェイと異なるネットワークにある PC から接続した場合、メディアサーバーを検出することはできません。

初期システム設定をする

システム名と管理者パスワードを設定します。



VMS では、1 つ以上のカメラやサーバーを含む、モニタリング（監視）の仕組み全体のことを「システム」と呼んでいます。

操作手順

- 1 Nx Witness デスクトップクライアントを起動します。
同一ネットワークのメディアサーバーが検索され、メディアサーバーが表示されます。
- 2 [新しいサーバー] をクリックします。



「Nx Witness を始める」画面が表示されます。

- 3 [新しいシステムをセットアップします] をクリックします。



システム名の設定画面が表示されます。

- 4 「システム名」にシステム名を入力して、[次→] をクリックします。



管理者パスワードの設定画面が表示されます。

- 5 「パスワード」と「パスワード (確認)」に管理者パスワードを入力して、[次→] をクリックします。



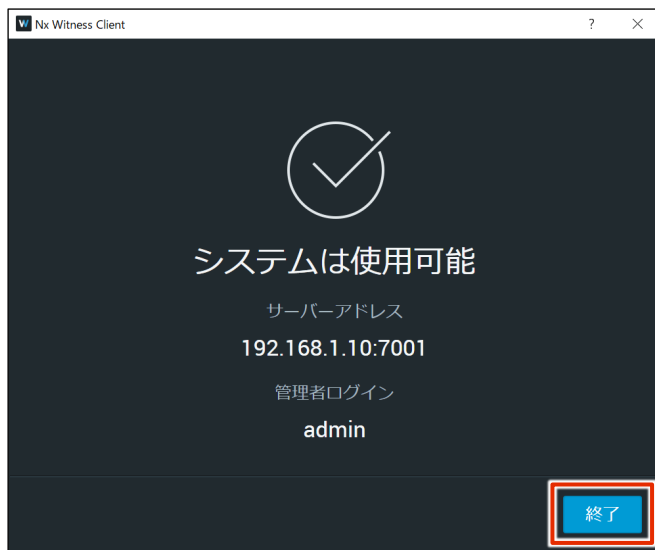
パスワードに、「?」、「/」、「#」を含まないでください。

上記文字のいずれかが含まれている場合は、統合ビデオ管理システムの全機能が利用できなくなります。



システムが使用可能になります。

6 [終了] をクリックします。



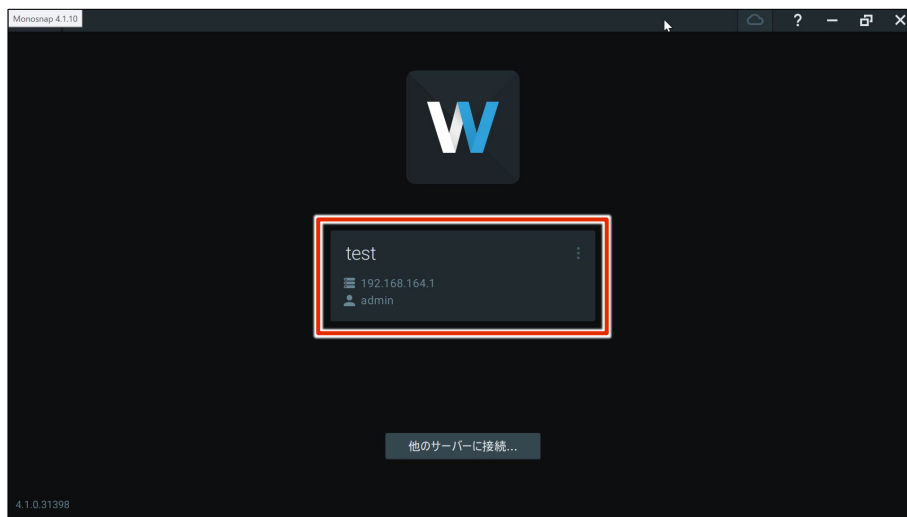
初期システム設定が終了します。

設定したシステムに接続する

初期システム設定で設定した情報で、システムに接続します。

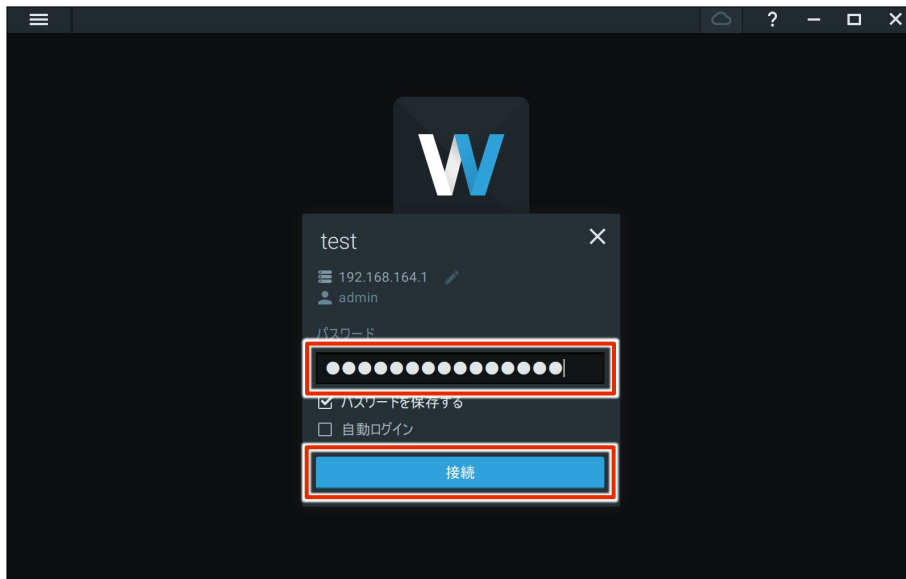
操作手順

- 1 Nx Witness デスクトップクライアントを起動します。
同一ネットワークのメディアサーバーが検索され、表示されます。
- 2 システムをクリックします。

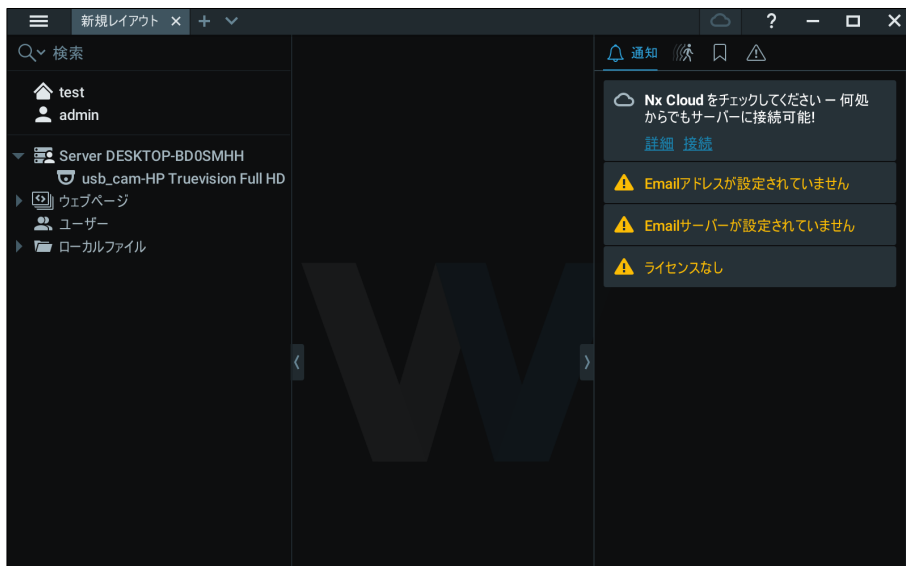


認証情報の入力画面が表示されます。

- 3 「パスワード」に管理者パスワードを入力して、「接続」をクリックします。



メディアサーバーにログインすると、以下のような画面が表示されます。



デバイスを確認する

メディアサーバーは、ネットワーク内でアクセス可能なデバイスを自動検出します。デバイスが起動すると、[カメラ&リソース] に表示されます。



- Axis カメラの「People Counter」機能が有効化されている場合、Nx Witness では自動検出と手動検出のいずれも動作しません。
- デバイスが別のネットワークに所属している場合、あるいはインターネットでのみアクセスできる場合、デバイスが自動検出されることはありません。
- ご利用のネットワーク環境やセキュリティ設定によっては、カメラが認識しないことがあります。その場合、VPN の環境や PC のセキュリティ設定などをご確認ください。

操作手順

- 1 Nx Witness デスクトップクライアントを起動し、メディアサーバーに接続します。



システムに接続する方法については、以下を参照してください。

→ 『[設定したシステムに接続する](#)』

- 2 サーバーをクリックします。

カメラが表示されます。



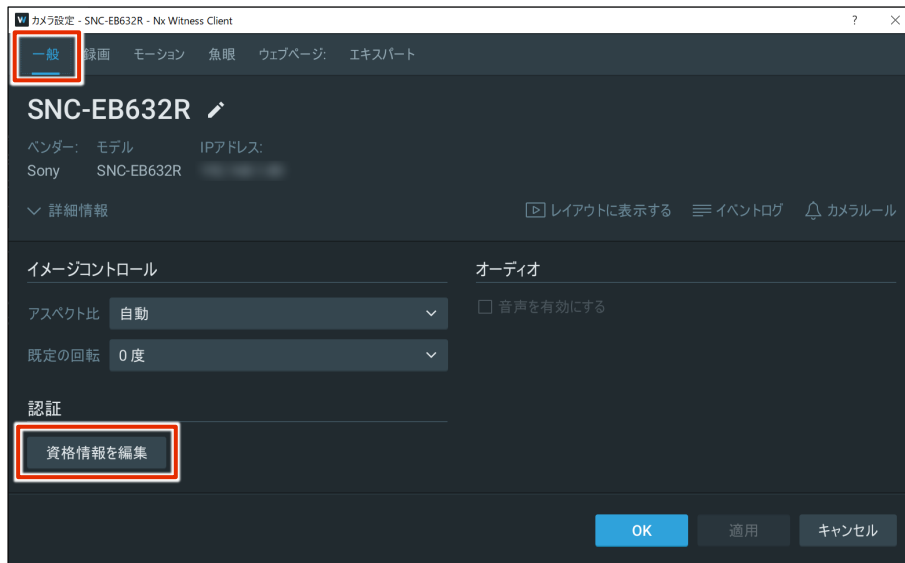
- 3 カメラの認証を行います。

- ① カメラ名を右クリックし、表示されたメニューから [カメラ設定] を選択します。



「カメラ設定」画面が表示されます。

- 2 [一般] タブで [資格情報を編集] をクリックします。



「認証資格情報」画面が表示されます。

- 3 カメラをセットアップした際に設定したログイン情報を入力して、[OK] をクリックします。



ログイン情報はお客さまによって異なります。

ユーザー名とパスワードは、カメラ初期設定時にご自身で設定したものを入力してください。




4 カメラ名をダブルクリックします。

カメラが動作している場合、以下のように映像が表示されます。



Tips デバイス認証が必要なカメラの場合

接続しているカメラの横に  というアイコンが表示されていることがあります。これは、デバイスが認証されていないことを表しています。

この場合、デバイス認証する必要があります。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

→ 『Nx Witness VMS Guide』



Nx Witness デスクトップクライアントを起動すると、アップデートを促すポップアップが表示することがありますが、アップデートは行わないでください。

詳しくは、次の FAQ を参照してください。

→ 『Nx Witness デスクトップクライアントを起動したら、アップデート画面が表示されます』

VMS の設定を保存する

設定 モード

Nx Witness のシステム設定が完了したら、設定内容を保存します。



設定を変更した場合は必ず Nx Witness の設定を保存してください。

設定内容を保存しない場合、カメラ設定などが消えて元の設定に戻ってしまうことがあります。

また、設定内容を保存すると冗長領域で起動した場合も設定が正しく反映されます。

→ 冗長領域については、『[エッジゲートウェイシリーズ GUI ユーザーズマニュアル](#)』を参照してください。

Nx Witness のパスワードと設定を保存する

Nx Witness の設定データをバックアップするために、Nx Witness の管理者パスワードをエッジゲートウェイに保存します。

→ Nx Witness の管理者パスワードの設定については、『[初期システム設定をする](#)』を参照してください。

本作業は、Graphical User Interface (GUI) で実施します。

→ GUI での接続手順については、『[初回サインイン](#)』を参照してください。

操作手順

- 1 GUI 画面サイドメニューの [詳細設定・制御] - [Nx Witness 設定] をクリックします。
「Nx Witness 設定」画面が表示されます。



- 2 「Nx Witness 設定」画面において、管理者パスワードを入力の上 [Nx Witness の設定を保存] をクリックします。



- 3 確認ダイアログが表示されるので、[保存する] をクリックします。

Nx Witness の管理者パスワードや、Nx Witness 内で設定した項目（録画設定やストレージ設定など）が保存されます。



amnimo VMS の設定をする



amnimo VMS は正式版ではないため、サポートの対象外です。

ご使用にあたり、予期せぬ不具合が発生する可能性があることをご了承ください。

amnimo VMS を有効化する

はじめに、Command Line Interface（以下、CLI）を利用してデバイスの amnimo VMS を有効化します。



- CLI の詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。

➔ 『[CLI ユーザーズマニュアル](#)』

- シリアルコンソールで接続して CLI 操作をすることも可能です。エッジゲートウェイの利用方法や設定内容の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

➔ 『[CLI ユーザーズマニュアル](#)』の『第1章 CLI の基本』

Tips

CLI の動作モードについて

エッジゲートウェイ専用の CLI には、一般ユーザーモード、管理者モード、設定モードという 3 種類の動作モードがあります。それぞれのモードでできる操作とコマンドラインのプロンプトを以下に示します。

ユーザーモード

一般ユーザーモードでは、運用管理に必要な操作をします。

```
amnimo$
```

管理者モード

管理者モードでは、一般ユーザーモードの操作に加え、エッジゲートウェイの再起動などを制御することができます。

```
amnimo#
```

設定モード

設定モードでは、設定内容を確認したり、設定したりすることができます。

```
amnimo(cfg)#
```

エッジゲートウェイにログインする

CLI でエッジゲートウェイにログインします。



事前に GUI で SSH を有効にしてください。

→ SSH の設定方法については、『SSH の設定をする』を参照してください。

操作手順

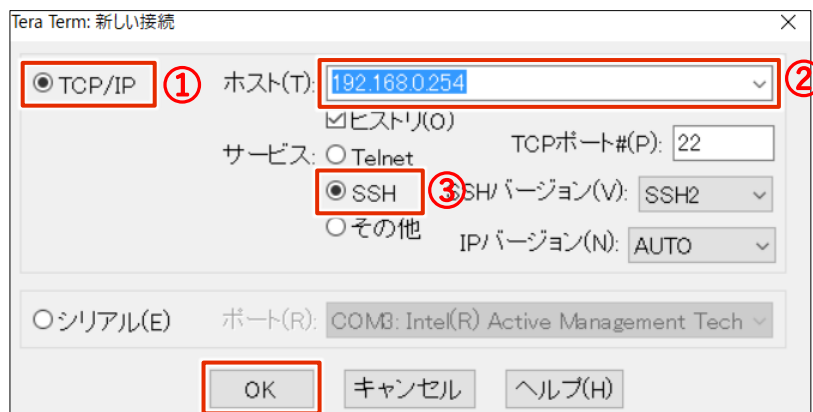
- 1 PC に、Tera Term や Putty などの Windows のターミナルエミュレーターソフトをインストールします。



本書では、Tera Term を使用して説明しています。

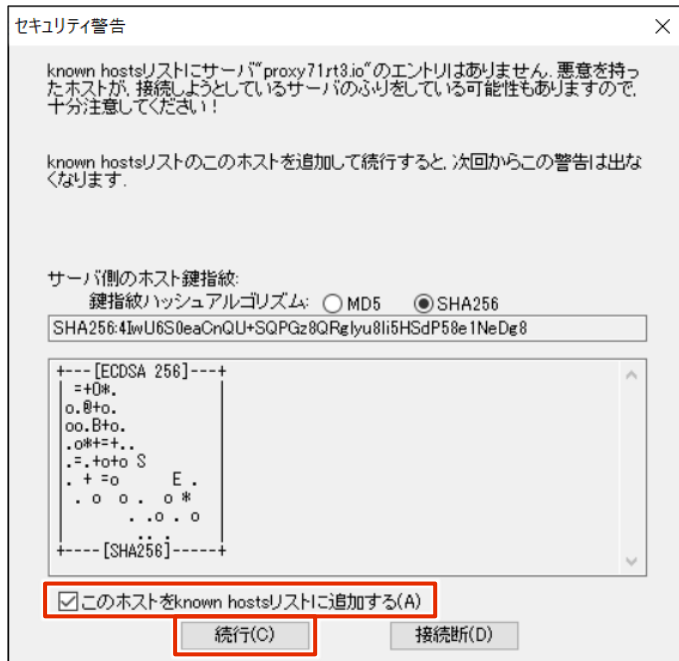
- 2 Tera Term を起動し、「Tera Term 新しい接続」画面で以下の設定をして、[OK] をクリックします。

- ① 「TCP/IP」を選択します。
- ② 「ホスト」に IP アドレス「192.168.0.254」を入力します。
- ③ 「サービス」で「SSH」を選択します。

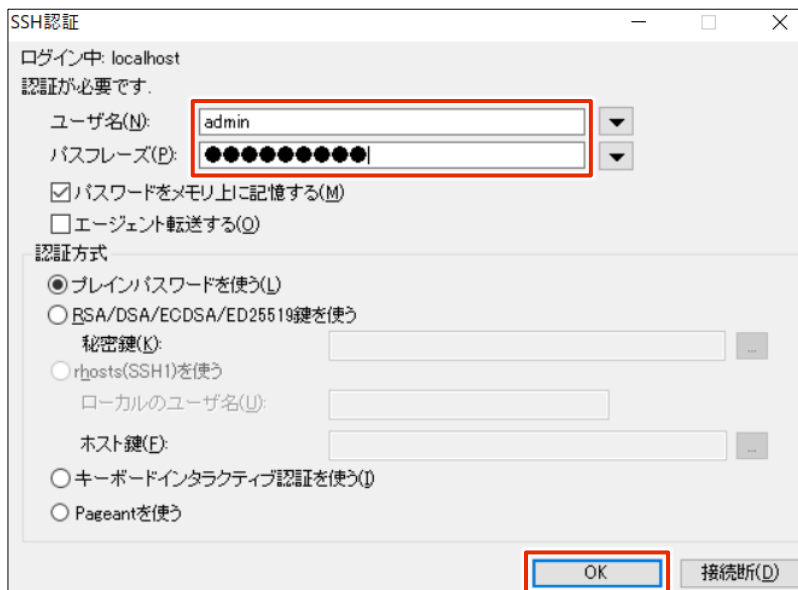


新しいホストに接続した場合、「セキュリティ警告」画面が表示されます。

- 3 [このホストを known hosts リストに追加する] にチェックを付けて、[続行] をクリックします。



- 4 Step 2 の初回ログインで入力したログイン情報を入力して、[OK] をクリックします。



CLI でエッジゲートウェイにログインします。

amnimo VMS の初期設定をする

amnimo VMS を有効化およびカメラ設定をします。



- amnimo VMS の初期設定について以下の FAQ を参照してください。

➔ 『[amnimo VMS の初期設定を行う](#)』

統合ビデオ管理システムの設定をする

このステップでは、統合ビデオ管理システムを利用するための設定について説明します。

amnimo IoT クラウドシステムの統合ビデオ管理システムを利用することで、統合ビデオ管理システムの主要な機能は、以下のとおりです。

- アラームの一覧表示
- ビデオクリップの取得、再生
- ビデオウォールによる複数カメラのサムネイル一覧表示
- スナップショットの取得



- 統合ビデオ管理システムの機能を利用するにはお申し込みが必要となります。また、同時にデバイス管理システムのお申し込みが必要です。
ご利用をご希望の場合は、営業担当者にご連絡ください。
- 統合ビデオ管理システムの設定を進めるためには、本ドキュメントにおける以下の設定が完了している必要があります。
 - [Step 1 起動/接続する](#)
 - [Step 2 エッジゲートウェイにサインインする](#)
 - [Step 3 エッジゲートウェイの設定をする](#)
 - [ネットワークカメラと接続する](#)
 - [VMS の設定をする](#)
- 統合ビデオ管理システムの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。
→ [『統合ビデオ管理システムマニュアル』](#)



統合ビデオ管理システムでは、H.264 のみサポートしているため、カメラのストリーミングプロファイル（Primary/Secondary 共）のコーデックを H.264 に指定してください。

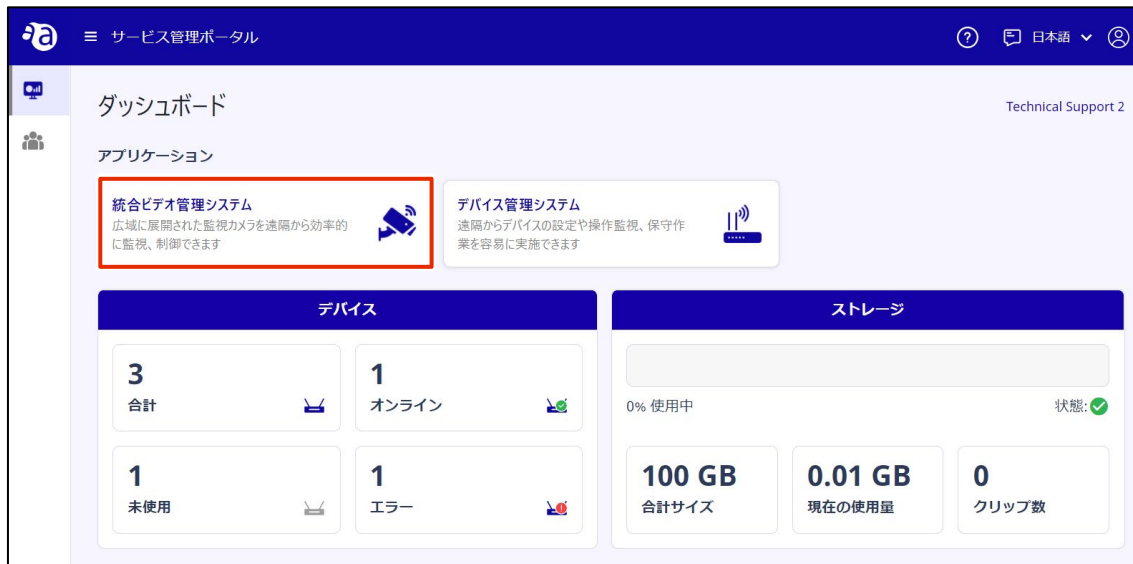
設定が正しく行われなかった場合、統合ビデオ管理システムの機能（ライブ映像の再生）に失敗する場合があります。ライブ映像の再生失敗については、次の FAQ を参照してください。

→ [『統合ビデオ管理システムにて、ライブ映像の再生に失敗します』](#)

エッジゲートウェイを有効化する

操作手順

- 1 Web ブラウザーで、[サービス管理ポータル](#)にログインします。
- 2 ダッシュボードで、[統合ビデオ管理システム] をクリックします。



- 3 ▼ をクリックし、[デバイス] を選択します。



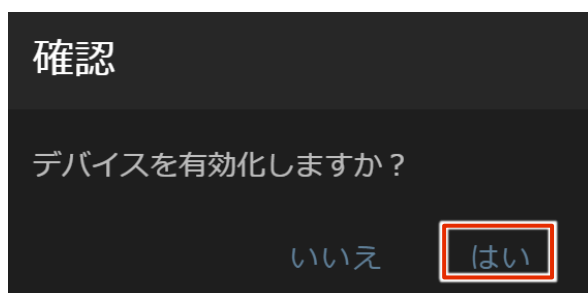
- 4 有効化したいデバイスの ⓘ をクリックし、[ゲートウェイ設定] をクリックします。



- 5 設定画面が開くので [有効化] をクリックします。



- 6 確認画面が開くので [はい] をクリックします。(この作業には数分かかることがあります。)



- 7 有効化が完了すると、[非有効化] ボタンがアクティブになります。



これで、有効化は完了です。

VMS の認証情報を設定する



amnimo VMS を利用する場合、VMS 認証情報の登録は不要です。『カメラを検出する』に進んでください。

操作手順

- 1 デバイスの をクリックし、[ゲートウェイ設定] をクリックします。



- 2 [その他] から [VMS 認証情報] をクリックします。



- 3 認証画面が表示されるので、ユーザー名とパスワードを入力して [設定] をクリックします。



VMS 認証には Nx Witness の管理者アカウント情報が必要です。

→ 『[Nx Witness のパスワードと設定を保存する](#)』

VMS認証情報の更新

ユーザ名

パスワード

戻る 設定


これで、VMS 認証情報が設定されました。

カメラを検出する



- 既にデバイスにカメラが接続されている場合、デバイスを有効化すればカメラは自動で検出されます。
- カメラが検出されている場合は、『カメラの認証と録画の設定をする』に進んでください。
- 統合ビデオ管理システムの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。
→ 『[統合ビデオ管理システムマニュアル](#)』
- カメラが検出されない場合に考えられる要因としては、以下が考えられます。
 - ・カメラのIP アドレスがエッジゲートウェイの br0 とは別のネットワークに属している
 - ・カメラのデフォルトゲートウェイのアドレスにエッジゲートウェイの br0 のIP アドレスが設定されていない
 - ・カメラの ONVIF 機能が有効になっていない

操作手順

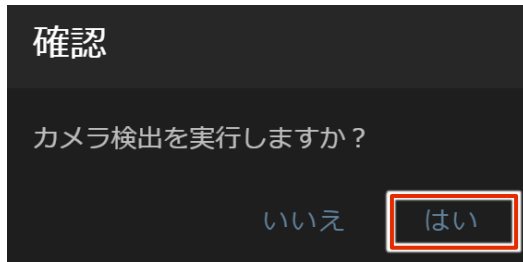
- 1 デバイスの  をクリックし、[ゲートウェイ設定] をクリックします。



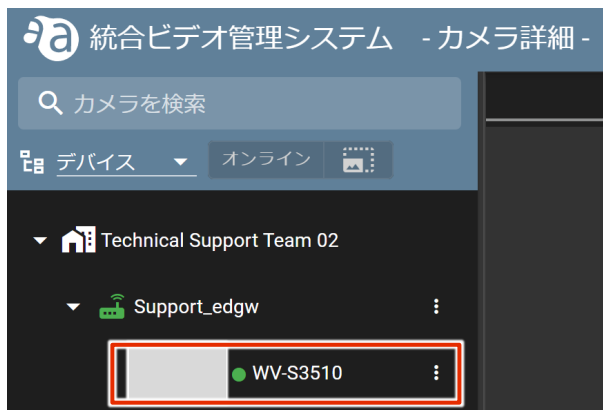
- 2 [その他] から [カメラ検出] をクリックします。



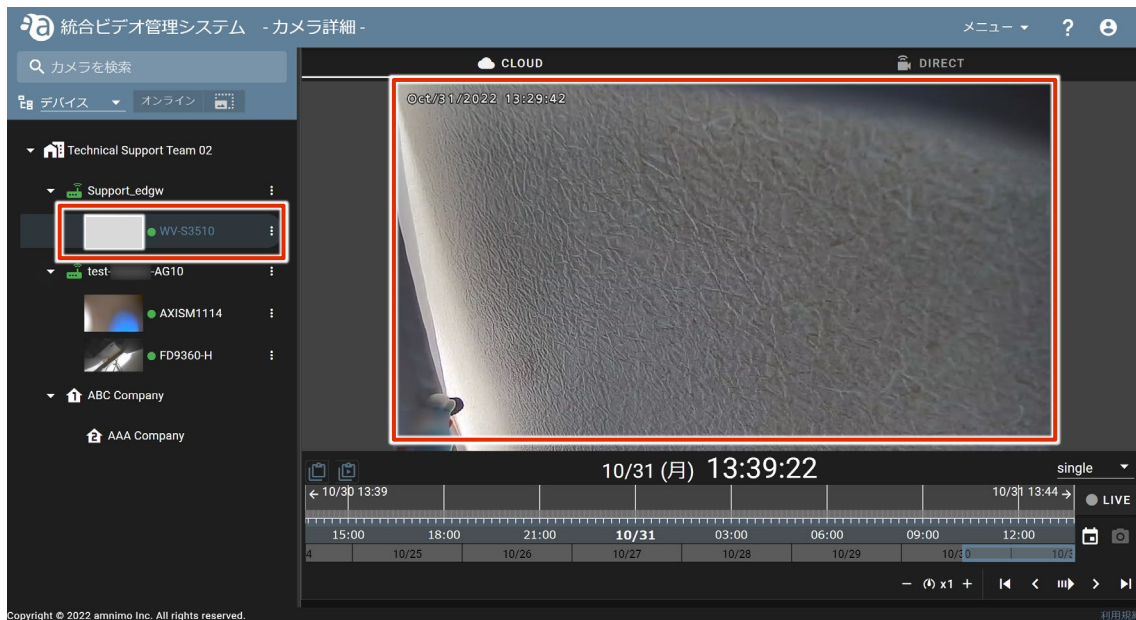
- 3 確認画面が表示されるので [はい] をクリックします。



- 4 サイドバーにカメラが表示されたことを確認します。(スナップショットを取得するまでサムネイルは表示されません。)




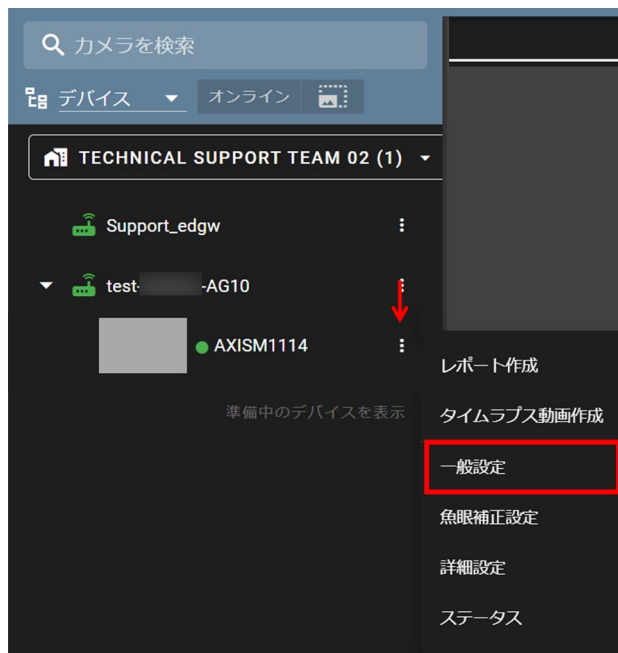
- 5 追加したカメラを選択し、映像が表示されることを確認します。



カメラの認証と使用開始の設定をする

操作手順

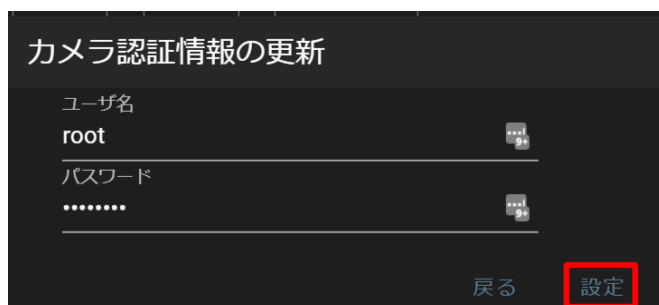
- 1 検出したカメラの  をクリックし、[一般設定] をクリックします。



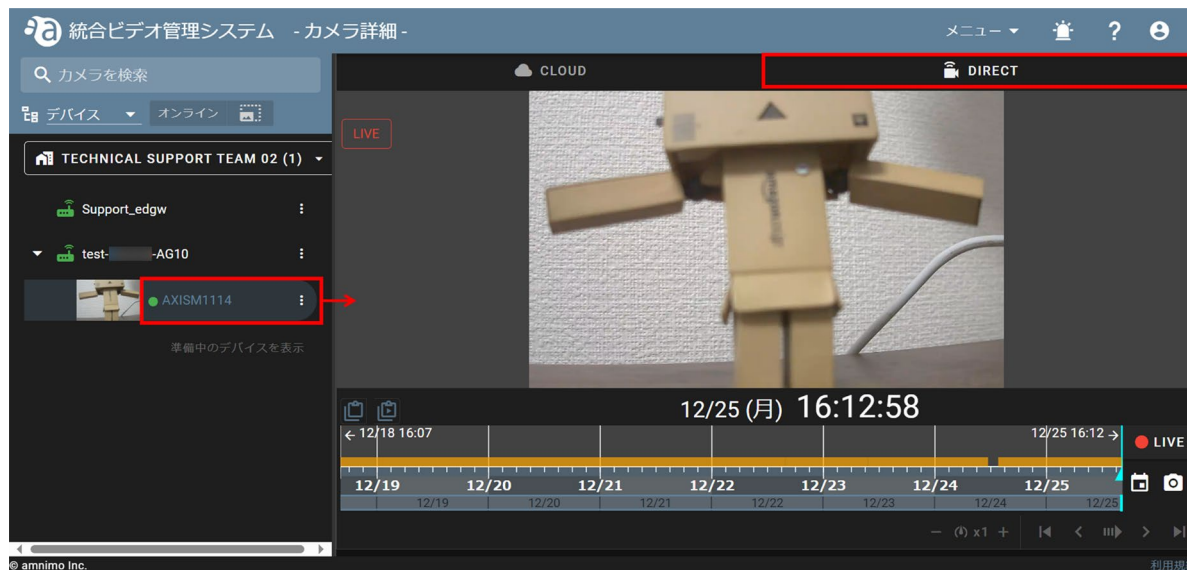
- 2 [カメラ認証情報] の [設定] をクリックします。



- 3 ユーザー名とパスワードを入力したら [設定] をクリック、画面を閉じます。
※ユーザー名とパスワードは、カメラ初期設定時にご自身で設定したものを入力してください。



- 4 追加したカメラを選択し、DIRECT タブをクリックして映像が表示されることを確認します。



デバイス管理システムの設定をする

このステップでは、デバイス管理システムを利用するための初期設定について説明します。

amnimo IoT クラウドシステムのデバイス管理システムを利用することで、遠隔地にあるエッジゲートウェイの監視やメンテナンスを容易に行うことができます。

デバイス管理システムの主要な機能は、以下のとおりです。

- デバイスのリモート監視
- デバイスの設定ファイルのリモート配布・取得
- ファームウェアのリモート更新
- Syslog のファイル取得



- デバイス管理システムの機能を利用するにはお申し込みが必要となります。ご利用をご希望の場合は、営業担当者にご連絡ください。
- デバイス管理システムの設定を進めるためには、本ドキュメントにおける以下の設定が完了している必要があります。
 - [Step 1 起動／接続する](#)
 - [Step 2 エッジゲートウェイにサインインする](#)
 - [Step 3 エッジゲートウェイの設定をする](#)
- デバイス管理システムの詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。
➔ 『デバイス管理システムマニュアル』

エッジゲートウェイを有効化する

デバイス管理システムから、対象のエッジゲートウェイを有効化します。



- 前章の『統合ビデオ管理システムを設定する』 - 『[エッジゲートウェイを有効化する](#)』からエッジゲートウェイを有効にしている場合は、本設定は不要です。
- 有効化を進めるためには、あらかじめエッジゲートウェイ側で時刻設定を完了しておく必要があります。

➔ 『[時刻を設定する](#)』

操作手順

- 1 エッジゲートウェイを有効化します。
 - ① 「デバイス」で [未使用] を選択します。
 - ② 対象のデバイスの [⋮] ボタンをクリックし、表示されたメニューで [有効化] を選択します。



「確認」画面が表示されます。

- 2 [確認] をクリックします。



エッジゲートウェイがインターネットに接続すると有効化が完了します。

- 3 エッジゲートウェイがインターネットに正常に接続しており、電波状態が良好であることを確認します。

- ① 対象のデバイスの状態が「正常」であることを確認します。
- ② 通信の電波アイコンがグリーンで表示されていることを確認します。

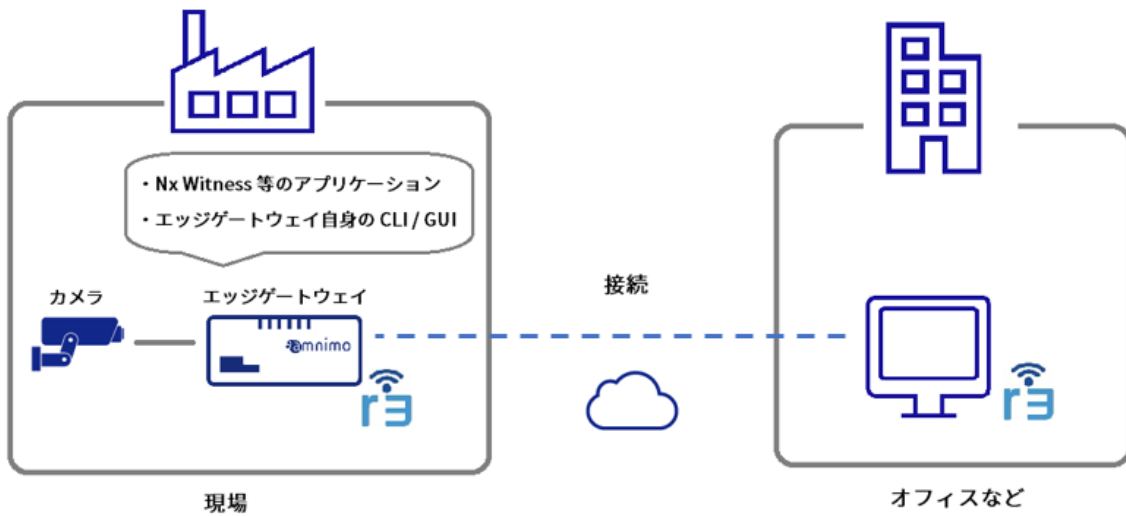


remote.it の設定をする

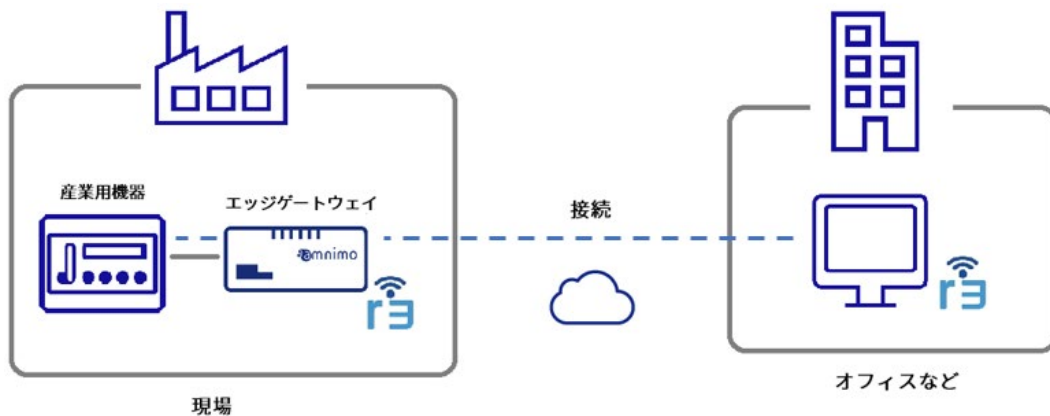
このステップでは、remote.it を利用するエッジゲートウェイの初期設定について説明します。

remote.it を利用することで、離れた場所にあるエッジゲートウェイに、ご利用の PC などの端末から安全にアクセスすることができるようになります。

- パターン 1：エッジゲートウェイ上で動くアプリケーションに遠隔でアクセスする場合



- パターン 2：エッジゲートウェイの LAN ポートに接続された産業用機器に遠隔でアクセスする場合



remote.it のアカウントを作成する

remote.it を利用するには、remote.it のアカウントが必要となります。ご利用をご希望のお客様は、amnimo の営業担当までご連絡いただき、remote.it のご利用契約を結んでください。

remote.it の利用を申し込まれた方へは、当社から remote.it アカウント作成に関する案内を送付します。案内に記載された内容に従ってアカウントを作成してください。



- **デバイス管理システムお申し込み後、remote.it を申し込まれる場合**

remote.it のアカウント作成完了後に amnimo のカスタマーサポートへ、会社名、お客様名、remote.it アカウントで利用しているメールアドレス、デバイス名、設定完了日をご連絡ください。

➔ <https://support.amnimo.com/hc/ja/requests/new>

- **アムニモの製品をサンプルとして利用される場合**

当社で作成済みの remote.it アカウントを使用して、試験・評価を行なうことが可能です。ご希望の場合はサンプル利用の申し込みの際に併せてお申し出ください。

操作手順

- 1 remote.it のアカウントを作成します。

アムニモから remote.it のアカウント作成に関する案内が届いたら、案内に記載の内容に沿って remote.it のアカウントを作成します。

remote.it の設定をする

はじめに、Graphic User Interface（以下、GUI）を利用してデバイスの remote.it を有効化します。

remote.it の有効化をする

remote.it を利用するために remote.it の有効化をします。



remote.it を利用する前に、以下の設定がされていることを確認してください。

- IoT ルーターがインターネットに接続している。
- IoT ルーターの DNS 設定がされている。
Step 2 で簡易設定した場合は、DNS の設定は有効化されています。
- 時刻が正しく設定されている。

操作手順

- 1 GUI でサインインをし、サイドメニューの [詳細設定・制御] - [remote.it 設定] をクリックします。
「remote.it 設定」画面が表示されます。



- 2 トグルをスライドし、remote.it を有効に設定します。



- 3 [設定] をクリックします。



デバイスを登録する

デバイス管理システムの利用の有無で設定方法が変わります。お使いの環境に合わせて、remote.it の設定を行ってください。

デバイス管理システムをご利用の場合

デバイス管理システムを利用している場合、以下のマニュアルの手順に沿ってデバイスの登録をします。

→ [『デバイス管理システムマニュアル- remote.it 』](#)



デバイス管理システムをご利用の場合、Command Line Interface (CLI) からデバイスやサービスの登録を行わないでください。デバイス管理システムから remote.it の設定が行えなくなります。

デバイス管理システムを利用していない場合

デバイス管理システムを利用していない場合、Command Line Interface (以下、CLI) を利用してデバイスを登録します。



- CLI の詳しい利用方法や設定内容については、以下のマニュアルを参照してください。
→ [『remote.it の初期設定をする \(AG/AR\) デバイスを登録する』](#)
- シリアルコンソールで接続して CLI 操作をすることも可能です。IoT ルーターの利用方法や設定内容の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。
→ [『CLI ユーザーズマニュアル』](#) の『第 1 章 CLI の基本』

サービスを登録する

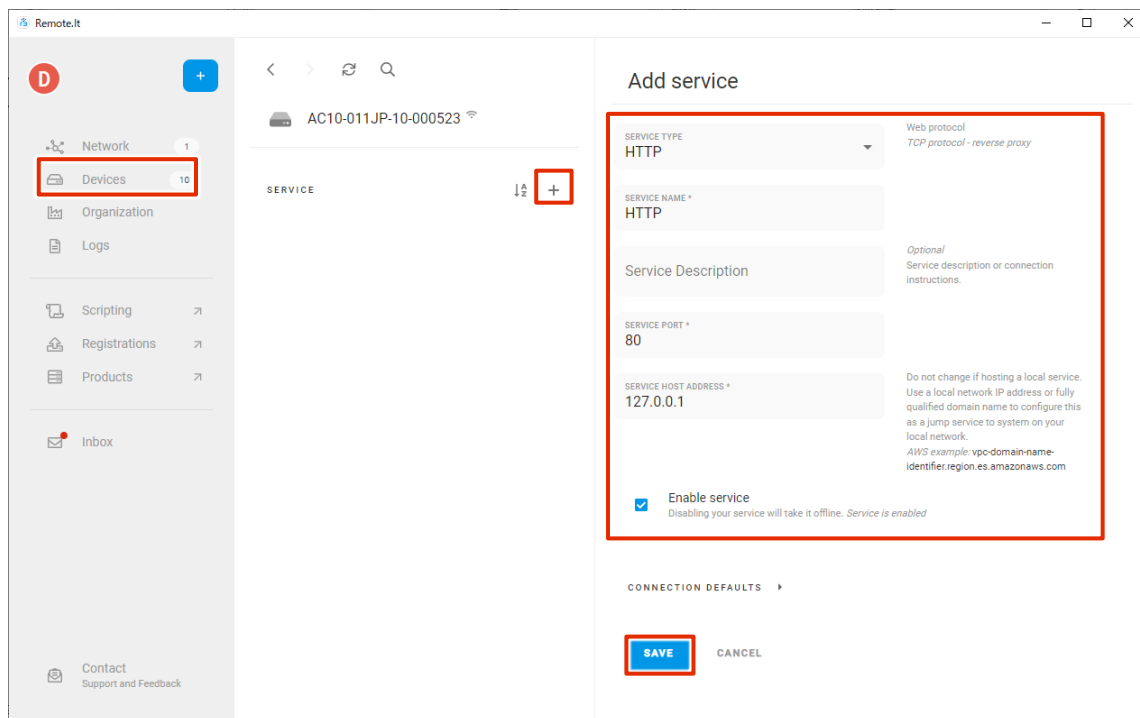


remote.it デスクトップアプリを使ってサービスを登録します。

- アプリケーションは、以下のサイトからダウンロードが行えます。
→ <https://ja.remote.it/download>
- インストールの詳しい手順については、以下のページを参照してください。
→ <https://support.remote.it/hc/ja/articles/4420541365773>

操作手順

- 1 remote.it デスクトップアプリを起動します。
- 2 サイドバーの [Devices] から、該当するデバイスをクリックします。
- 3 SERVICE とある項目で [+] ボタンをクリックし、追加したいサービスを選択したら、サービス名とポート番号などの必要な情報を入力し、[SAVE] をクリックして保存します。



remote.it を使ってサービスに接続する

本章では、remote.it の Windows 用のクライアントアプリケーションを PC にインストールし、前項で設定したデバイスのサービスに接続する手順について説明します。



- 本書では、remote.it の「[イニシエーター接続機能](#)」を利用してエッジゲートウェイに接続します。
- 「デバイス登録機能」を使ってデバイスを登録すると、課金対象となりますのでご注意ください。

操作手順

1 remote.it デスクトップアプリケーションをインストールします。

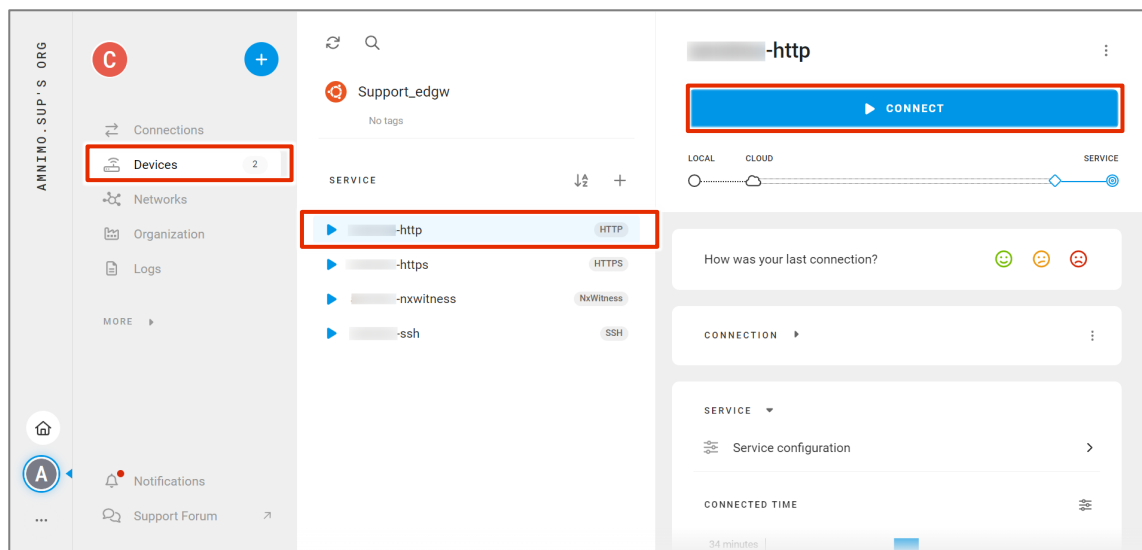


remote.it デスクトップアプリを使ってサービスに接続します。

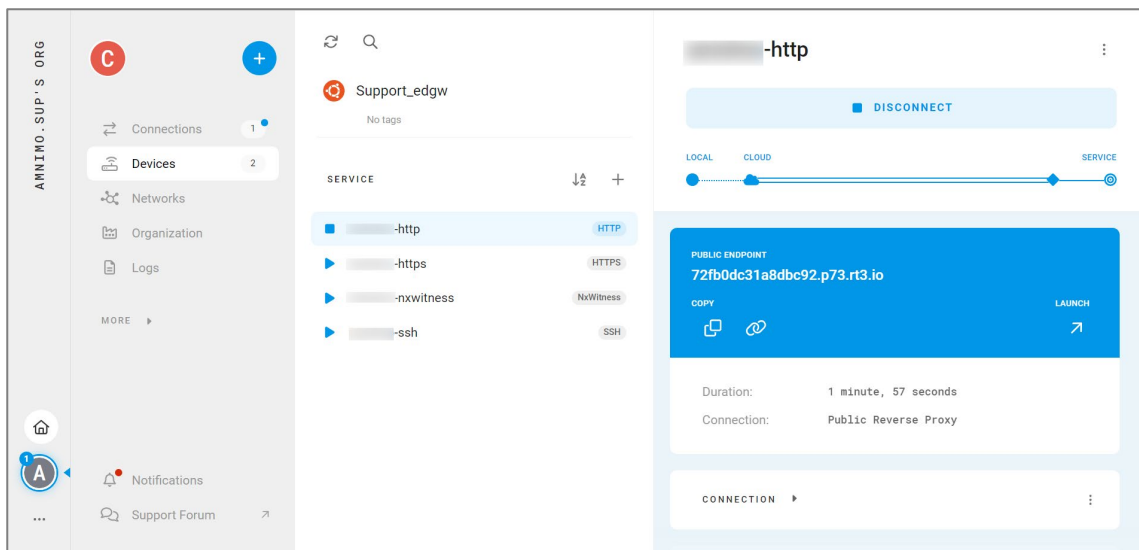
- アプリケーションは、以下のサイトからダウンロードが行えます。
→ <https://ja.remote.it/download>
- インストールの詳しい手順については、以下のページを参照してください。
→ <https://support.remote.it/hc/ja/articles/4420541365773>

2 remote.it デスクトップアプリケーションを起動します。

3 サイドバーから [Devices] をクリックして対象のデバイスを開き、接続したいサービス（本手順では HTTP）を選択し、[CONNECT] をクリックします。（アプリのバージョンによっては、[START] と表示されることがあります。）



- 4 接続が確立されると接続情報が表示されるため、HTTP 接続ができることを確認します。



remote.it デスクトップアプリからデバイスに接続する方法については以下のページにも詳しい記載があります。

➔ <https://support.remote.it/hc/ja/articles/4421390375565>

ライセンスおよび商標

ライセンス

- 本エッジゲートウェイでは、GPL（GNU General Public License）等のオープンソースライセンスに基づくソフトウェアを使用しています。
詳細については、当社 Web サイトに記載しています。
[エッジゲートウェイシリーズ オープンソースソフトウェア使用許諾条件書](#)
- 保証の範囲と対応責任
本エッジゲートウェイにおいて、GPL 等の条項に従いオープンソースソフトウェアそのものの動作に関しては、保証を行いません。

商標

- 本文中に使われている商品名、会社名などの固有名詞は各社の商標または登録商標です。

改訂履歴

第 1 版	2020 年 11 月発行
第 2 版	2021 年 5 月発行
第 3 版	2021 年 9 月発行
第 4 版	2021 年 10 月発行
第 5 版	2021 年 11 月発行
第 6 版	2022 年 6 月発行
第 7 版	2022 年 9 月発行
第 8 版	2022 年 11 月発行
第 9 版	2023 年 12 月発行
第 10 版	2023 年 12 月発行
第 11 版	2024 年 2 月発行
第 12 版	2024 年 2 月発行
第 13 版	2024 年 2 月発行



エッジゲートウェイスタートアップガイド
2024 年 2 月 6 日 第 13 版

IM AMD03A01-10JA

All Rights Reserved. Copyright © 2020, amnimo Inc